

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年6月26日

【事業年度】 第66期(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

【会社名】 アネスト岩田株式会社

【英訳名】 ANEST IWATA Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 壺田貴弘

【本店の所在の場所】 神奈川県横浜市港北区新吉田町3176番地

【電話番号】 横浜(045)271 - 5577

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 飯田紀之

【最寄りの連絡場所】 神奈川県横浜市港北区新吉田町3176番地

【電話番号】 横浜(045)271 - 5577

【事務連絡者氏名】 取締役管理部長 飯田紀之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次 決算年月	第62期 平成20年3月	第63期 平成21年3月	第64期 平成22年3月	第65期 平成23年3月	第66期 平成24年3月
(1) 連結経営指標等					
売上高 (千円)	28,096,344	22,435,189	17,886,116	20,171,000	21,212,262
経常利益 (千円)	3,602,369	2,029,578	1,103,450	2,325,841	2,264,953
当期純利益 (千円)	2,313,453	1,376,478	711,524	1,379,265	1,322,181
包括利益 (千円)				822,964	1,308,380
純資産額 (千円)	16,942,142	16,821,492	17,440,804	17,367,534	17,852,623
総資産額 (千円)	26,911,964	23,482,733	24,140,502	24,468,966	24,716,142
1株当たり純資産額 (円)	354.79	352.38	368.81	378.87	399.28
1株当たり当期純利益 (円)	49.87	29.84	15.44	30.53	30.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	60.8	69.2	69.4	68.7	70.0
自己資本利益率 (%)	14.3	8.4	4.3	8.2	7.8
株価収益率 (倍)	7.6	8.8	21.0	14.3	13.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,685,331	1,614,683	1,778,636	2,620,514	879,188
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,294,748	94,686	2,081,963	916,388	347,729
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,610,819	715,042	438,739	1,072,317	837,426
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,375,261	5,210,922	4,507,869	5,039,090	4,684,854
従業員数 (名)	993	1,080	970	1,001	1,089
(2) 提出会社の経営指標等					
売上高 (千円)	23,200,437	17,996,880	13,333,424	15,429,416	15,366,822
経常利益 (千円)	3,283,837	1,869,297	889,489	1,906,954	1,795,071
当期純利益 (千円)	2,968,898	1,042,165	615,983	983,734	1,102,457
資本金 (千円)	3,354,353	3,354,353	3,354,353	3,354,353	3,354,353
発行済株式総数 (株)	46,165,505	46,165,505	46,165,505	44,365,505	43,365,505
純資産額 (千円)	16,474,311	16,538,121	16,824,509	16,794,148	17,218,465
総資産額 (千円)	24,893,454	22,149,947	22,495,286	23,013,531	22,822,814
1株当たり純資産額 (円)	357.13	358.49	370.59	378.70	397.13
1株当たり配当額 (円)	14.50	8.00	5.00	9.50	10.00
(内1株当たり 中間配当額) (円)	(7.00)	(6.00)	(0.00)	(5.00)	(5.00)
1株当たり当期純利益 (円)	64.00	22.59	13.37	21.78	25.16
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)					
自己資本比率 (%)	66.2	74.7	74.8	73.0	75.4
自己資本利益率 (%)	18.0	6.3	3.7	5.9	6.5
株価収益率 (倍)	5.9	11.6	24.2	20.1	15.7
配当性向 (%)	22.7	35.4	37.4	43.6	39.7
従業員数 (名)	697	673	589	569	561

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 従業員数は、就業人員数を表示しております。

3 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。

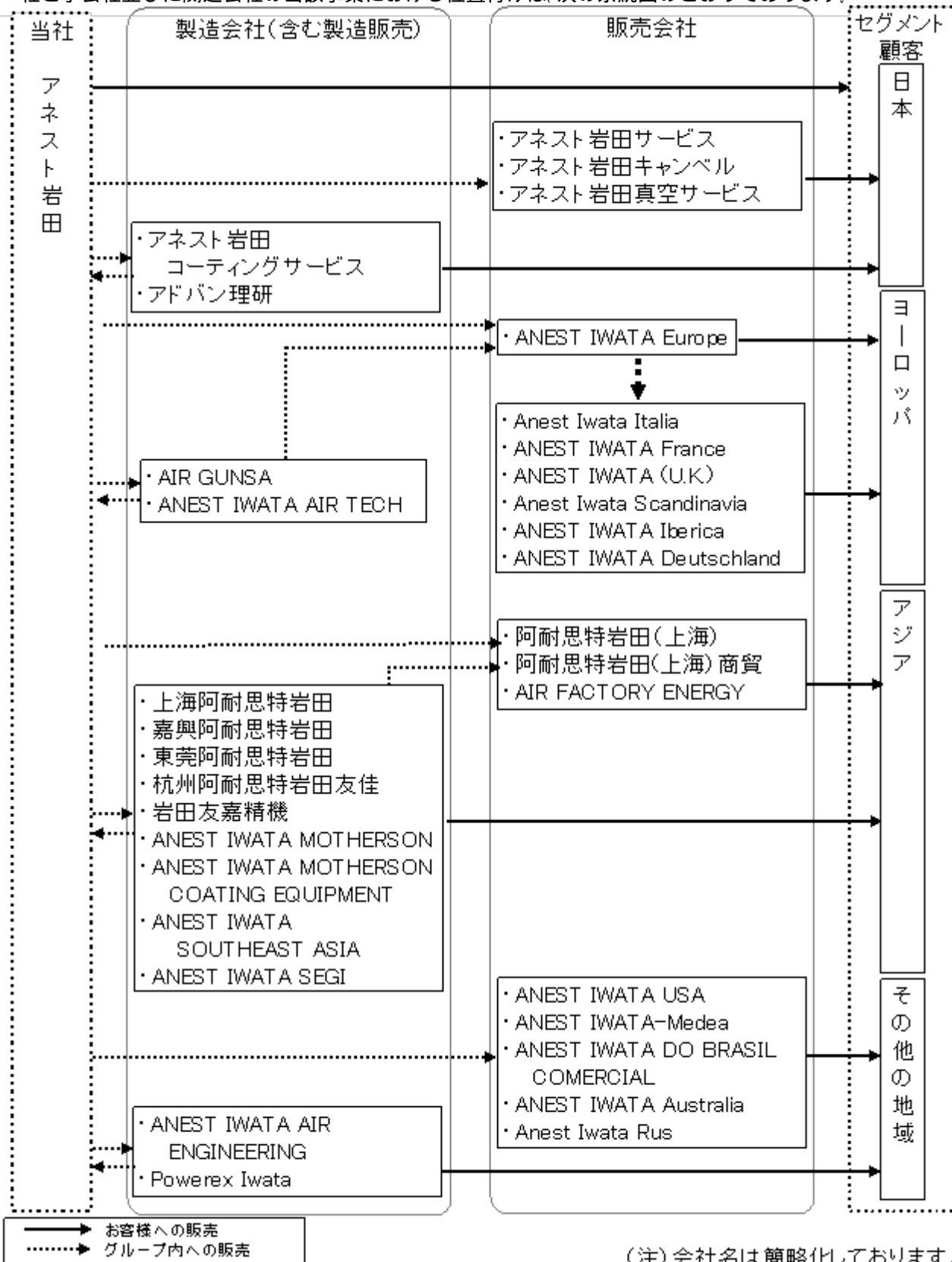
2 【沿革】

大正15年5月 岩田製作所創業、スプレーガン、小形コンプレッサの製造販売を開始。
昭和5年12月 社名を岩田噴付塗機械製作所と変更、渋谷区向山町に店舗工場を移転。
昭和15年5月 合資会社に改組し、社名を合資会社岩田噴霧塗装機械製作所と変更。
昭和27年8月 横浜市港北区南綱島町に、工場を建設。
昭和32年4月 岩田塗装機工業株式会社を設立し、合資会社岩田噴霧塗装機械製作所の事業を継承。
昭和36年8月 株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
昭和37年1月 塗装設備部を新設し、塗装設備分野に本格的進出。
昭和37年10月 横浜市港北区新吉田町にコンプレッサー貫工場建設。
昭和38年10月 額面変更のため形式上の存続会社である岩田塗装機工業株式会社(登記上の設立年月日は昭和23年6月2日)に吸収合併される。
昭和44年3月 国産初の空冷二段シリーズを発表し、中形コンプレッサ分野に進出。
昭和47年10月 東北岩田塗装機株式会社(アネスト岩田秋田株式会社)を設立。
昭和48年8月 株式を東京証券取引所市場第一部へ上場。
昭和50年9月 福島岩田塗装機株式会社(アネスト岩田福島株式会社)を設立。
昭和52年9月 シングルスクリーコンプレッサを発表し、ロータリーコンプレッサ分野に進出。
昭和56年3月 貿易部を新設し、貿易業務の拡大を図る。
昭和59年9月 第一回物上担保附転換社債25億円発行。
昭和62年8月 台湾岩田塗装機股分有限公司(現岩田友嘉精機股分有限公司)に資本参加。
昭和63年1月 Powerex-Iwata Air Technology, Inc. に資本参加。
平成元年7月 IWATA ITALIA s.r.l. (現Anest Iwata Italia s.r.l.)に資本参加。
平成元年11月 アトラスコブコ岩田株式会社に資本参加。
平成3年11月 IWATA EUROPE s.r.l. (現ANEST IWATA Europe s.r.l.・連結子会社)を設立。
平成3年12月 東京証券取引所において当社株式が貸借銘柄に選定される。
平成4年6月 IWATA FRANCE S.A. (現ANEST IWATA France S.A.・連結子会社)に資本参加。
平成4年10月 上海岩田塗装機械有限公司(現上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司)に資本参加。
平成5年5月 空冷オイルフリースクロールパキユームポンプを開発し、真空ポンプ分野に進出。
平成5年7月 IWATA(U.K.)LTD. (現ANEST IWATA(U.K.)Ltd.・連結子会社)を設立。
平成6年7月 IWATA AMERICA, INC. (現ANEST IWATA USA, Inc.・連結子会社)を設立。
平成7年11月 岩田サービス株式会社(現アネスト岩田サービス株式会社・連結子会社)を設立。
平成8年2月 ISO 9001(国際標準化機構)の認証を受ける。
平成8年10月 社名をアネスト岩田株式会社に変更。
平成9年9月 Cormak Anest Iwata Pty.Ltd. (現ANEST IWATA Australia Pty.Ltd.・連結子会社)に資本参加。
平成9年11月 AIR GUNSA s.r.l.(現・連結子会社)に資本参加。
平成10年3月 アネスト岩田キャンベル株式会社(現・連結子会社)を設立。
平成11年3月 ISO14001(国際標準化機構)の認証を受ける。
平成11年4月 横浜市港北区新吉田町に新社屋を建築。
平成11年11月 アトラスコブコ岩田株式会社を当社100%出資会社とし、社名をアネスト岩田興産株式会社に
変更。
平成12年10月 IWATA-Medea, Inc.(現ANEST IWATA-Medea, Inc.・連結子会社)に資本参加。
平成12年12月 ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.(現・連結子会社)を設立。
平成14年4月 嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司(現・連結子会社)を設立。
平成15年2月 Anest Iwata Scandinavia AB(現・連結子会社)を設立。
平成15年8月 阿耐思特岩田産業機械(上海)有限公司(現・連結子会社)を設立。
平成17年4月 ANEST IWATA SEGI Corp.(現・連結子会社)を設立。
平成17年8月 株式会社アドバン理研に資本参加。
平成17年10月 ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co.,Ltd.(現・連結子会社)を設立。
平成18年10月 東莞阿耐思特岩田機械有限公司(現・連結子会社)を設立。
平成18年11月 ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd.(現・連結子会社)を設立。
平成19年4月 アネスト岩田秋田株式会社、アネスト岩田福島株式会社、アネスト岩田興産株式会社を吸収合併。
平成19年7月 アネスト岩田コーティングサービス株式会社(現・連結子会社)を設立。
平成19年11月 ANEST IWATA Iberica S.L.(現・連結子会社)を設立。
平成19年11月 AIR FACTORY ENERGY Ltd.(現・連結子会社)に資本参加。
平成21年8月 ANEST IWATA Deutschland GmbH(現・連結子会社)を設立。
平成21年11月 杭州阿耐思特岩田友佳空圧機有限公司に資本参加。
平成22年9月 ANEST IWATA RUS LLC(現・連結子会社)を設立。

平成22年12月	ANEST IWATA DO BRASIL CONSULTORIA TECNICA LTDA. (現ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA.・連結子会社)を設立。
平成23年2月	ANEST IWATA AIR ENGINEERING, Inc. (現・連結子会社)を設立。
平成23年8月	アネスト岩田真空サービス株式会社(現・連結子会社)を設立。
平成23年11月	阿耐思特岩田(上海)商貿有限公司(現・連結子会社)を設立。
平成24年3月	ANEST IWATA AIR TECH s.r.l. (現・連結子会社)に資本参加。
平成24年5月	圧縮機及び真空機器の生産を横浜工場から福島工場へ集約。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社並びに子会社27社・関連会社7社で構成され、専ら圧縮機、真空機器並びに塗装機器・設備の製造販売を行っており、製品市場・製品用途等の類似性から単一事業構成となっております。当社と子会社並びに関連会社の当該事業における位置付けは、次の系統図のとおりであります。



名称	国及び地域	主要な事業の内容
当社[日本] アネスト岩田株式会社	日本	圧縮機、真空機器、塗装機器、塗装設備の製造販売
連結子会社 [日本] アネスト岩田サービス株式会社 アネスト岩田コーティングサービス株式会社 アネスト岩田真空サービス株式会社 アネスト岩田キャンベル株式会社	日本 日本 日本 日本	圧縮機の修理及び部品販売 塗装機器の修理及び部品販売、塗装設備の製造販売 真空機器及び真空設備の修理及び部品販売 圧縮機、塗装機器、工具の販売
[ヨーロッパ] ANEST IWATA Europe s.r.l. AIR GUNSA s.r.l. ANEST IWATA AIR TECH s.r.l. ANEST IWATA France S.A. ANEST IWATA (U.K.) Ltd. Anest Iwata Scandinavia AB ANEST IWATA Iberica S.L. ANEST IWATA Deutschland GmbH	イタリア イタリア イタリア フランス イギリス スウェーデン スペイン ドイツ	塗装機器、塗装設備の販売 塗装機器の製造販売 圧縮機の製造販売 塗装機器、塗装設備の販売 塗装機器、塗装設備の販売 塗装機器の販売 塗装機器の販売 塗装機器の販売
[アジア] 阿耐思特岩田産業機械(上海)有限公司 嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司 東莞阿耐思特岩田機械有限公司 阿耐思特岩田(上海)商貿有限公司 ANEST IWATA MOTHERSON Ltd. ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd. AIR FACTORY ENERGY Ltd. ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co.,Ltd. ANEST IWATA SEGI Corp.	中国 中国 中国 中国 インド インド インド タイ 韓国	圧縮機、真空機器、塗装機器、塗装設備の販売 圧縮機、塗装設備の製造販売 塗装設備の製造販売 圧縮機、真空機器、塗装設備の販売 圧縮機の製造販売 塗装機器の製造販売 圧縮機の販売 圧縮機、真空機器、塗装機器、塗装設備の製造販売 圧縮機の製造販売
[その他の地域] ANEST IWATA USA, Inc. ANEST IWATA-Medea, Inc. ANEST IWATA AIR ENGINEERING, Inc. ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA. ANEST IWATA Australia Pty. Ltd. ANEST IWATA RUS LLC	アメリカ アメリカ アメリカ ブラジル オーストラリア ロシア	塗装機器の販売 塗装機器の販売 圧縮機、真空機器の製造販売 塗装機器の販売 圧縮機、塗装機器の販売 塗装機器の販売
関連会社(持分法適用) 株式会社アドバン理研 Anest Iwata Italia s.r.l. 上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司 杭州阿耐思特岩田友佳空圧機有限公司 岩田友嘉精機股份有限公司 Powerex-Iwata Air Technology, Inc.	日本 イタリア 中国 中国 台湾 アメリカ	酸素ガス、窒素ガス、オゾンガス発生装置の製造販売 塗装機器の販売 塗装機器の製造販売 圧縮機の製造販売 塗装機器の製造販売 圧縮機の製造販売
関連会社(持分法非適用) 株式会社 海南	日本	圧縮機、真空機器、塗装機器、塗装設備の販売

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	議決権の (被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) アネスト岩田サービス株式会社	横浜市港北区	10,000千円	圧縮機の修理 及び部品販売	100.0		国内における圧縮機の修理及び 部品の販売をしている。当社所 有の建物を賃借している。 役員の兼任等...有
アネスト岩田コーティング サービス株式会社(特)	横浜市港北区	10,000千円	塗装機器の修 理及び部品販 売、塗装設備の 製造販売	100.0		国内における塗装機器の修理及 び部品販売、塗装設備の製造販 売をしている。当社所有の建物 を賃借している。 役員の兼任等...有
アネスト岩田キャンベル 株式会社	横浜市港北区	100,000千円	圧縮機、塗装機 器、工具の販 売	67.0		国内のDIY市場への販売及び サービスをしている。当社より 資金援助を受けている。当社所 有の建物を賃借している。 役員の兼任等...有
アネスト岩田真空サービス株 式会社	横浜市港北区	10,000千円	真空機器及び 真空設備の修 及び部品販売	100.0		国内における真空機器の修理及 び部品販売、真空設備の製造販 売をしている。当社より資金援 助を受けている。当社所有の建 物を賃借している。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA Europe s.r.l.	イタリア トリノ市	800千EUR	塗装機器、塗装 設備の販売	93.5		ヨーロッパ地域における販売を 統轄している。当社より資金援 助を受けている。 役員の兼任等...有
AIR GUNSA s.r.l.	イタリア トリノ市	156千EUR	塗装機器の製 造販売	95.0 (10.0)		自社ブランドの塗装機器製品を 製造販売している。当社より資 金援助を受けている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA AIR TECH S.r. l.	イタリア トリノ市	700千EUR	圧縮機の製造 販売	66.5		ヨーロッパ地域の圧縮機本体を 組み込んだ製品の製造販売をし ている。 役員の兼任等...無
ANEST IWATA France S.A.	フランス アラヴィエ村	160千EUR	塗装機器、塗装 設備の販売	90.0 (10.0)		主にフランス国内の販売及び サービスをしている。当社より 資金援助を受けている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA (U.K.)Ltd.	イギリス ケンブリッジ シャー州	400千GBP	塗装機器、塗装 設備の販売	100.0 (10.0)		主にイギリス国内の販売及び サービスをしている。当社より 資金援助を受けている。 役員の兼任等...有
Anest Iwata Scandinavia AB	スウェーデン バルティエレ市	800千SEK	塗装機器の販 売	90.0 (10.0)		北欧地域の販売及びサービスを 担当している。 役員の兼任等...無
ANEST IWATA Iberica S.L.	スペイン バルセロナ市	370千EUR	塗装機器の販 売	90.0 (10.0)		主にスペイン及びポルトガル国 内の販売及びサービスをしてい る。当社より資金援助を受けて いる。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA Deutschland GmbH	ドイツ ザクセン州	400千EUR	塗装機器の販 売	90.0 (10.0)		主にドイツ国内の販売をしてい る。当社より資金援助を受けて いる。 役員の兼任等...有
阿耐思特岩田産業機械(上海) 有限公司	中華人民共和國 上海市	200千USD	圧縮機、真空機 器、塗装機器、 塗装設備の販 売	100.0		主に中国国内の販売及びサービ スを担当している。 役員の兼任等...有
嘉興阿耐思特岩田産業機械有 限公司	中華人民共和國 浙江省嘉興市	2,300千USD	圧縮機、塗装機 器の製造販売	80.0		圧縮機本体を組み込んだ製品及 び塗装設備の製造し、主に中国 国内で販売している。 役員の兼任等...有
東莞阿耐思特岩田機械有限公 司	中華人民共和國 広東省東莞市	1,200千USD	塗装設備の製 造販売	51.0		塗装設備を製造し、主に中国国 内で販売している。 役員の兼任等...有

名称	住所	資本金又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	議決権の (被所有) 割合(%)	関係内容
阿耐思特岩田(上海)商貿有限公司	中華人民共和国 上海市	500千USD	圧縮機、真空機 器、塗装設備の 販売	100.0		中国国内で圧縮機、真空機器、 塗装設備の輸出入及び国内販 売をしている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA MOTHERSON Ltd. (特)	インド ニューデリー市	435,000千INR	圧縮機の製造 販売	51.0		圧縮機製品を製造し、主にイン ド国内に販売している。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA MOTHERSON COATINGEQUIPMENT Ltd.	インド ニューデリー市	7,500千INR	塗装機器の製 造販売	51.0		主にインド国内での塗装機の 製造販売を担当している。 役員の兼任等...有
AIR FACTRY ENERGY Ltd.	インド ニューデリー市	8,000千INR	圧縮機の販売	100.0(100.0)		主にインド国内の販売及び サービスを担当する。ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.の子会 社。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co.,Ltd.	タイ バンコク市	60,000千THB	圧縮機、真空機 器、塗装機器、 塗装設備の製 造販売	100.0		圧縮機本体を組み込んだ製品、 真空機器、塗装機器、塗装設備 製品を製造し、アセアン地域に 販売している。当社より資金援 助を受けている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA SEGI Corp.	大韓民国 仁川広域市	1,500,000 千KRW	圧縮機の製造 販売	51.0		圧縮機本体を組み込んだ製品 を製造し、主に韓国国内に販売 している。当社より資金援助を 受けている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA USA, Inc.	アメリカ オハイオ州	2,400千US\$	塗装機器の販 売	100.0		主にアメリカ国内の販売及び サービスを担当している。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA- Medea, Inc.	アメリカ オレゴン州	500千US\$	塗装機器の販 売	80.0		主にアメリカ国内のアート・ 美容市場への販売を担当して いる。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA AIR ENGINEERING, Inc.	アメリカ オハイオ州	1,300千US\$	圧縮機、真空機 器の製造販売	100.0		圧縮機本体を組み込んだ製品、 真空機器のアメリカ国内の製 造販売をしている。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA.	ブラジル サンパウロ市	1,000千 BRL	塗装機器の販 売	100.0		主にブラジル国内の販売及び サービスを担当している。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA Australia Pty.Ltd.	オーストラリア セブンヒルズ市	500千A\$	圧縮機、塗装機 器の販売	100.0		オセアニア地域の販売及び サービスを担当している。 役員の兼任等...有
ANEST IWATA RUS LLC	ロシア モスクワ市	6,500千RUB	塗装機器の販 売	100.0		主にロシア国内及び東欧地域 の販売及びサービスを担当し ている。 役員の兼任等...有
(持分法適用関連会社)						
株式会社アドバン理研	京都府八幡市	80,000千円	酸素ガス、窒素 ガス、オゾンガ スの発生装置 の製造販売	40.0		圧縮機を組み込んだ製品を製 造販売している。 役員の兼任等...有
Anest Iwata Italia s.r.l.	イタリア トリノ市	260千EUR	塗装機器の販 売	24.9		主にイタリア国内の販売及び サービスを担当している。 役員の兼任等...無
上海阿耐思特岩田 塗装機械有限公司	中華人民共和国 上海市	329,412千円	塗装機器の製 造販売	47.5		塗装機器製品を製造し、主に中 国国内に販売している。 役員の兼任等...有
杭州阿耐思特岩田友佳 空圧機有限公司	中華人民共和国 浙江省杭州市	7,500千USD	圧縮機の製造 及び販売	35.0		圧縮機製品を製造し、主に中国 国内に販売している。 役員の兼任等...有
岩田友嘉精機股分 有限公司	中華民国 台湾省新竹県	33,000千NT\$	塗装機器の製 造販売	50.0		塗装機器製品を製造し、当社へ 供給するとともに、台湾内に販 売している。 役員の兼任等...有
Powerex-Iwata Air Technology, Inc.	アメリカ オハイオ州	1,632千US\$	圧縮機の製造 及び販売	33.0		圧縮機本体を組み込んだ製品 を製造し、主にアメリカ国内で 販売している。 役員の兼任等...有

(注) 1 主要な事業の内容欄には、製品区分別の製造・販売・サービス(修理含む)などの営業区分を記載してあります。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度の経営成績

当連結会計年度における当社グループを取り巻く経済情勢は、国内では、東日本大震災の影響により企業の生産活動や個人消費が落ち込むなか、一部に回復の兆しが見られるものの総じて厳しい状況が続きました。海外では、中国・インドなどの新興国では成長が見られたものの、欧州の債務問題、原油価格高騰、中国の金融引締め政策、タイの洪水などにより世界的に減速感が強まりました。当業界においては、海外市場ではアジアを中心に順調に推移しました。一方、国内市場では震災復興に係る需要や新興国需要の回復があったものの、震災の影響による生産や消費の下振れにより厳しい状況で推移いたしました。

このようななか、当社グループは海外を含めた有望市場の開拓・深耕に積極的に経営資源を投入し、諸施策を実行してまいりました。新製品開発におきましては、圧縮機製品では新形給油式レシプロコンプレッサの開発、真空機器製品では研究開発用・ガス回収用・一般工業向けの真空ポンプの開発、塗装機器製品では、自動車補修用スプレーガンの塗料メーカ推奨モデルや工程別専用モデル、北米市場向け大形低圧スプレーガン、塗料以外の液体塗布専用モデルとして離型剤や食用油などの液体塗布用スプレーガンの開発をいたしました。販売におきましては、新市場・新販路の拡大を図るため海外を含む営業拠点設置や再配置を行うと共にITツール活用によるお客様への提案力向上を図ってまいりました。

併せて利益の拡大を目指して原価低減策の実行や経費の見直しを継続推進してまいりましたが、当連結会計年度の業績は、売上高21,212百万円（前連結会計年度比5.2%増）、営業利益2,043百万円（同4.7%減）、経常利益2,264百万円（同2.6%減）、当期純利益1,322百万円（同4.1%減）となり、前連結会計年度の業績と比較し増収減益となりました。これは主に製品別売上高構成の変化や電力規制等による生産効率低下により売上原価率が1.2ポイント上昇したことによるものです。

セグメントの業績

セグメントの業績については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項」の（セグメント情報等）に記載のため省略しております。

製品別売上高は次のとおりです。

製品別売上高

(単位:千円)

製品区分	前連結会計年度		当連結会計年度		前連結会計年度対比	
	平成22年4月1日から 23年3月31日まで	平成	平成23年4月1日から 24年3月31日まで	平成	増減額	増減率%
	売上高	構成比%	売上高	構成比%		
圧縮機	9,358,355	46.4	10,334,658	48.7	976,302	10.4
真空機器	1,852,675	9.2	1,609,907	7.6	242,768	13.1
塗装機器	7,549,510	37.4	7,654,549	36.1	105,038	1.4
塗装設備	1,410,458	7.0	1,613,147	7.6	202,689	14.4
計	20,171,000	100.0	21,212,262	100.0	1,041,262	5.2

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ354百万円減少し、当連結会計年度末には4,684百万円（同7.0%減）となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(イ) 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、資金収支は879百万円（同66.5%減）の収入となり、前連結会計年度に比べ1,741百万円の収入の減少となりました。これは主に、「たな卸資産の増減額」が412百万円増加したことなどによるものです。

(ロ) 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、資金収支は347百万円（同62.1%減）の支出となり、前連結会計年度に比べ568百万円の支出の減少となりました。これは主に、「投資有価証券の取得による支出」が850百万円減少したことなどによるものです。

(ハ) 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、資金収支は837百万円（同21.9%減）の支出となり、前連結会計年度に比べ234百万円の支出の減少となりました。これは主に、「短期借入金の純増減額」が156百万円増加したことなどによるものです。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績は次のとおりであります。

セグメント	金額(千円)	前期比(%)
日本	15,988,503	3.0
ヨーロッパ	275,904	4.7
アジア	706,186	6.7
その他	-	-
合計	16,970,593	3.0

(注) 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注状況は、次のとおりであります。

なお、塗装設備の一部を除く製品については見込み生産を行っております。

セグメント	受注高(千円)	前期比(%)	受注残高(千円)	前期比(%)
日本	941,129	0.1	132,915	65.9
ヨーロッパ	-	-	-	-
アジア	392,687	52.1	64,138	65.6
その他	2,640	-	-	-
合計	1,336,456	11.3	197,054	65.8

(注) 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績は、次のとおりであります。

セグメント	金額(千円)	前期比(%)
日本	15,395,843	3.2
ヨーロッパ	1,609,037	0.5
アジア	2,715,995	27.8
その他	1,491,385	2.2
合計	21,212,262	5.2

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
(株)海南	2,377,561	11.8	2,571,439	12.1

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、景気に左右されない企業構造ならびに企業体質への変革に向けて、事業構造・経営情報管理の改革を推進し、競争力の強化を図ってまいりました。更なる成長へ繋げる為、具体的には下記の課題に対処してまいります。

お客様密着型営業スタイルの確立

営業員・サービス員のパワーを十分に引き出すためのITツールの更なる開発やお客様とのコミュニケーションを目的とした諸施設の充実を進めてまいります。

効率的生産・供給体制の確立

「計画生産方式」から「受注生産方式」への転換を更に進めてまいります。現在、国内で実施している受注生産方式を海外子会社にも拡大し、併せて海外物流体制を充実させ、納期短縮と在庫の削減を進めてまいります。圧縮機と真空機器の生産拠点を福島工場に集約し、生産の効率化を進めと共に、国内物流拠点を福島・大阪の2拠点到集約し配送効率の改善を実現します。

お客様志向の製品開発

お客様が満足できるカスタマイズ製品を開発することが、ニッチ市場を制覇し、果ては収益の拡大に貢献するものと考え、世界の主要拠点到技術者を配置することによりエリア別開発体制の構築・整備を進めてまいります。

グローバル化の推進

当社グループは、イタリア・イギリス・フランス・スペイン・スウェーデン・ドイツ・ロシア・インド・タイ・中国・台湾・韓国・アメリカ・オーストラリア・ブラジルに関係会社を設立しています。これらの関係会社の収益と事業の更なる拡大を図るとともに、経営情報管理体制を含めたグローバル化の拡大を積極的に進めてまいります。

人材の確保・育成

教育制度・人事諸制度の充実により、国内外の諸課題に対応する人材を確保・育成してまいります。

事業継続計画（BCP）の充実

災害発生時の早期復旧と事業継続を目的とする事業継続計画において、実践的な教育訓練を強化して災害等の緊急事態発生に対応できる体制を充実してまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には主に以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであり、国内外の経済情勢等により影響を受ける可能性があり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

原材料価格の上昇

当社グループの製品は、原材料として鉄、非鉄金属等を使用しています。それらの原材料の価格は、需要の変化・供給不足・経済状態・エネルギーコスト・輸入規制等により値上がりする可能性があります。当社グループは、コスト競争力の強化に継続して取り組んでいますが、原材料価格の上昇は業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

海外での事業活動

海外での事業活動において、予期し得ないテロ・戦争・内乱等による政治的・社会的混乱及び地震・台風・洪水等の自然災害及び法規制や租税制度の変更・経済状況の急変等が、当社グループの経営成績及び財政状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

為替レートの変動

当社グループにおける販売や資材調達等の取引には、外貨建取引が含まれており、為替レート変動の影響を受けます。当社グループの外貨建取引は、主に米ドル・ユーロの売買取引であり、同通貨の変動については当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

情報セキュリティ

当社グループが保有する顧客情報や機密情報等の情報資産の保護については、情報セキュリティマニュアルに基づきウィルス対策、ファイアーウォールの強化、アクセス権・ログ管理など様々な対策を講じておりますが、予期し得ない不正アクセスによる情報漏洩等が発生した場合には、当社グループの経営成績及び財政状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

知的財産保護

当社グループでは、独自の技術・ノウハウを基にお客様のニーズに適合した製品を販売し、お客様の信頼を高めています。また、当社グループの知的財産については、その重要性を認識し保護手続をとっています。しかし、第三者による類似製品の製造販売を防止できない場合もあり、それが市場競争力に影響を及ぼす可能性があります。また、逆に第三者所有の知的財産を侵害しているとされる可能性もあり、そのことにより事業に悪影響を及ぼす可能性があります。

退職給付債務

退職給付債務及び年金の資産に関し、会計基準に基づいて給付費用を負担し資金を拠出しております。株式や債券市場等の予測し得ない市況変動により、年金資産の収益性が低下すれば、追加的な資金拠出と費用負担が必要になる可能性があります。平成21年度より確定拠出年金を導入し、平成24年度には確定拠出年金に完全移行しリスクの低減を図りましたが、企業年金受給者及び待機者への追加の資金拠出と費用負担はリスクとして残ります。

品質

当社グループでは、ISO9001に基づいた品質保証体制のもと、当社製品を市場のお客様に提供しております。しかし、予期せぬ不具合の発生により、当社グループの経営成績及び財政状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

環境保全

当社グループでは、ISO14001の認証を取得し、環境に配慮した製品の開発・製造・販売活動を実施しています。環境法規制の改正等により規制が強化された場合、その規制に適合した製品の開発・製造・販売は当社グループにとって大きなビジネスチャンスともなります。しかし、規制を受ける生産事業所としては、それらに対応するための経済的負担が当社グループの経営成績及び財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

大規模災害の影響

当社グループは神奈川県・秋田県・福島県を国内生産拠点としています。また、その周辺に当社に部品を供給するサプライヤーがいます。リスク軽減のためBCPマニュアル等の整備や教育・訓練を実施しておりますが、これらの地区に大規模災害が発生した場合には、各種設備の破損等の理由により、生産・販売活動が重大な影響を受け、当社グループの経営成績及び財政状況等に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は、当社が主体となり関係会社と共同推進する形をとっており、環境保全を技術開発の大きな目的にするとともに、固有技術の進化と先端技術の応用展開を進めながら、顧客ニーズに応えるための新製品開発と既存製品の改良を積極的に進めております。

なお、当期の研究開発費の総額は409百万円です。その他に製品の改良・改造に使用した498百万円を製造経費としております。その総額907百万円となり、報告セグメントは全て日本です。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、当社及び国内子会社は会計システムを統一し、データの一元化をしております。

また、海外を含めた関係会社につきましては経理グループによって、収集資料の統一とマニュアル化を行い、定期的に情報を入手する仕組み作りをしました。これにより、タイムリーかつスピーディーにグループ全体の財政状態及び経営成績の検証を実施しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

< 財政状態の分析 >

資産

流動資産は、13,035百万円（前連結会計年度比1.3%減）となりました。これは、主に「現金及び預金」が866百万円減少したことによるものです。固定資産は、11,680百万円（同3.7%増）となりました。これは主に、「長期性預金」が500百万円増加したことなどによるものです。この結果、総資産は24,716百万円（同1.0%増）となりました。

負債

流動負債は、4,456百万円（同0.7%減）となりました。これは主に、「未払法人税等」が330百万円減少したことなどによるものです。固定負債は、2,406百万円（同8.0%減）となりました。これは主に、「退職給付引当金」が147百万円減少したことなどによるものです。この結果、負債合計は6,863百万円（同3.4%減）となりました。

純資産

純資産は、17,852百万円（同2.8%増）となりました。これは主に、「利益剰余金」が570百万円増加したことなどによるものです。また、純資産より少数株主持分を除いた自己資本は17,311百万円と

なり自己資本比率は前連結会計年度末の68.7%から70.0%と1.3ポイントの増加となりました。

< 経営成績の分析 >

売上高

「第2事業の状況 1業績等の概要 (1)業績」に記載のため省略しております。

売上原価

売上原価は売上高構成比59.3%となり、前連結会計年度に比べ1.2ポイント原価率が上昇しました。これは、主に売上高の製品構成の変動によるものです。

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は6,591百万円となり、前連結会計年度に比べ279百万円の増加となりました。これは、主に海外売上高の増加に伴い「荷造運搬費」が増加したことによるものです。

営業利益

以上により、営業利益は2,043百万円となり、前連結会計年度に比べ100百万円の減少となりました。

経常利益

経常利益は2,264百万円となり、前連結会計年度に比べ60百万円の減少となりました。

税金等調整前当期純利益

税金等調整前当期純利益は2,267百万円となり、前連結会計年度に比べ53百万円の増加となりました。

当期純利益

以上により、当期純利益は1,322百万円となり、前連結会計年度に比べ57百万円の減少となりました。

< キャッシュ・フローの分析 >

「第2事業の状況 1業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載のため省略しております。

(3) 経営成績に重要な影響を与える原因について

当社グループを取り巻く経済環境・経営環境は、原油価格の高騰や為替変動、また国際情勢の変化など先行きの予測が難しい状況にあります。

詳しくは「第2事業の概要」の「3.対処すべき課題」並びに「4.事業等のリスク」に記載しております。

(4) 経営戦略の現状と見通し

景気の先行きは、各国政府による経済施策や金融政策の方向性、原材料の価格変動、為替変動、また国際情勢の変化など不透明な状況が継続しています。

このような状況のなか、当社は利益の確保を経営戦略・経営行動の最優先事項として、あらゆる経費削減を実施して最適の効率とコストを追求してまいります。一方、未開拓の海外市場に対する投資、国内市場における有望市場の開拓・深耕、新製品開発には継続的に経営資源を投入し、業績の向上に全力をあげて取り組んでまいります。

(5) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの当連結会計年度末の資金の流動性は、短期借入金50百万円、1年内返済予定の長期借入金8百万円に対して、現金及び現金同等物の期末残高4,684百万円と必要な手許流動性を確保し、必要な流動性水準を維持しております。

さらに、当座貸越限度額及び貸出コミットメント契約は海外子会社分を含め総額8,499百万円を保有しておりますが、借入実行残高はございません。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、圧縮機製品、真空機器製品、塗装機器製品、塗装設備製品を企業のコア事業として捉えています。更なる成長のため、新規事業の開拓にも積極的に取り組んでまいります。

また、景気に左右されない企業構造並びに企業体質への改革を進めると共に、地球環境に配慮した製品の開発・販売に注力し、さらなる収益の拡大に努め企業価値の向上を図ってまいります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループは、「景気に左右されない企業構造並びに企業体質への変革」という基本方針に基づき、生産設備の更新及び合理化、環境改善を中心に総額594百万円の設備投資を実施いたしました。

セグメント別には、日本では、主に当社の生産ライン・組立ライン等の最効率化生産のための機械設備更新や省力化設備の増強、量産用各種ダイカスト型の取得及び電力供給不足に対応するための非常用発電機の設置などに390百万円の投資を行いました。ヨーロッパでは、主に生産設備増強のために28百万円の投資を行いました。アジアでは、主に生産設備増強のために157百万円の投資を行いました。その他では、17百万円の投資を行いました。

所要資金については、自己資金及びリース契約によっております。

2 【主要な設備の状況】

当社及び連結子会社における主要な設備は、以下のとおりであります。

(1) セグメント別内訳

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
	建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	リース資産	土地 (面積㎡)	その他	合計	
日本	2,109,902	609,164	473,524	1,422,347 (215,173.89) 〔1,788.25〕	57,106	4,672,046	637
ヨーロッパ	31,068	20,657		8,906 (5,696.00)	9,430	70,062	77
アジア	237,021	165,453			39,933	442,408	322
その他	5,932	18,943			4,843	29,719	53
合計	2,383,926	814,219	473,524	1,431,253 (220,869.89) 〔1,788.25〕	111,314	5,214,238	1,089

- (注) 1 帳簿価額には建設仮勘定196,958千円及び消費税等は含んでおりません。
 2 土地、建物、車両及びその他の一部を賃借しております。賃借料及びリース料は329,478千円であります。賃借している土地の面積は[]で外書きしております。
 3 休止中の主要な設備はありません。

(2) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	リース資産	土地 (面積㎡)	その他		合計
本社事務所・工場 (横浜市港北区)	日本	圧縮機等 生産設備 及びその 他の設備	1,554,914	176,459	202,353	665,348 (37,897.28) [1,788.25]	34,923	2,634,000	311
秋田工場 (秋田県大仙市)	日本	塗装機器 生産設備	82,402	234,337	21,876	40,315 (32,572.80)	6,298	385,230	62
福島工場 (福島県西白河郡矢吹町)	日本	圧縮機生 産設備	324,355	198,367	249,294	414,978 (143,287.79)	14,124	1,201,120	125
東日本営業部 (東京都大田区) 1支店7営業所	日本	その他の 設備	93,569			186,401 (856.78)	152	280,123	37
西日本営業部 (大阪市福島区) 2支店3営業所	日本	同上	54,660			115,303 (559.24)	1,023	170,987	26
合計			2,109,902	609,164	473,524	1,422,347 (215,173.89) [1,788.25]	56,522	4,671,462	561

- (注) 1 帳簿価額には建設仮勘定44,879千円及び消費税等は含んでおりません。
 2 帳簿価額には関係会社へ貸与している備品70千円を含んでおります。
 3 土地、建物、車両及びその他の一部を賃借しております。賃借している土地の面積は[]で外書きしております。
 4 主要な賃借及びリース設備として、以下のものがあります。

事業所名	セグメントの名称	設備の内容	従業員数 (名)	賃借料又はリース料(千円)
本社事務所・工場 (横浜市港北区)	日本	圧縮機等 生産設備及び その他の設備	311	リース料 29,893
				賃借料 53,575
福島工場 (福島県西白河郡矢吹町)	日本	圧縮機生産設備	125	リース料 24,972
				賃借料 12,558
東日本営業部 (東京都大田区) 1支店7営業所	日本	その他の設備	37	賃借料 26,335
西日本営業部 (大阪市福島区) 2支店3営業所	日本	同上	26	賃借料 12,676

(3) 国内子会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	リース資産	土地 (面積㎡)	その他		合計
アネスト岩田サービス(株) (横浜市港北区) 全国12ステーション	日本	その他の 設備					584	584	32
アネスト岩田コーティング サービス(株) (横浜市港北区) 全国7ステーション	日本								27
アネスト岩田キャンベル (株) (横浜市港北区) 全国2営業所	日本								11
アネスト岩田真空サービス (株) (横浜市港北区)	日本								6

- (注) 帳簿価額には消費税等は含んでおりません。

(4) 在外子会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	リース資産	土地 (面積㎡)	その他	合計		
ANEST IWATA Europe s.r.l. (イタリア トリノ市)	ヨーロッパ	その他の設備		2,169				1,697	3,866	24
ANEST IWATA France S.A. (フランス フアラヴィエ村)	ヨーロッパ	同上						1,989	1,989	13
ANEST IWATA(U.K.) Ltd. (イギリス ケンブリッジ シャー州)	ヨーロッパ	同上		823				173	997	6
Anest Iwata Scandinavia AB (スウェーデン パルティール 市)	ヨーロッパ	同上	23,358	434			6,093 (2,308.00)		29,886	5
AIR GUNSA s.r.l. (イタリア トリノ市)	ヨーロッパ	塗装機器 生産設備	7,709	17,128			2,812 (3,388.00)	3,591	31,242	16
ANEST IWATA Iberica,S.L (スペイン パルセロナ市)	ヨーロッパ	その他の設備		101				874	976	4
ANEST IWATA AIR TECH s.r. l. (イタリア トリノ市)	ヨーロッパ	圧縮機生 産設備								
ANEST IWATA USA, Inc. (アメリカ オハイオ州)	その他	その他の設備						656	656	10
ANEST IWATA-Medea, Inc. (アメリカ オレゴン州)	その他	同上		9,757				1,714	11,472	14
ANEST IWATA MOTHERSON Ltd. (インド ニューデリー市)	アジア	圧縮機生 産設備	173,412	89,329				21,387	284,129	171
ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd. (インド ニューデリー市)	アジア	塗装機器 生産設備 等		3,574				2,835	6,410	17
東莞阿耐思特岩田機械有限 公司 (中華人民共和国 東莞市)	アジア	塗装設備 生産設備		25,794				526	26,320	21
嘉興阿耐思特岩田産業機械 有限公司 (中華人民共和国 嘉興市)	アジア	圧縮機生 産設備等	63,608	44,003				3,090	110,702	29
阿耐思特岩田産業機械(上 海)有限公司 (中華人民共和国 上海市)	アジア	その他の設備						7,804	7,804	52
阿耐思特岩田(上海)商貿 有限公司 (中華人民共和国 上海市)	アジア	同上								4
ANEST IWATA SEGI Corp. (大韓民国 仁川広域市)	アジア	圧縮機生 産設備		449				1,151	1,600	9
ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA CO.,Ltd. (タイ バンコク市)	アジア	圧縮機生 産設備等		2,302				3,137	5,440	19
ANEST IWATA Australia Pty. Ltd. (オーストラリア セブンヒ ルズ市)	その他	その他の設備		5,948					5,948	16
ANEST IWATA Deutschland GmbH (ドイツ ザクセン州)	ヨーロッパ	同上						1,104	1,104	9
ANEST IWATA RUS LLC (ロシア モスクワ市)	その他	同上						69	69	4
ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA. (ブラジル サンパウロ市)	その他	同上		2,080				911	2,992	3
ANEST IWATA AIR ENGINEERING, INC. (アメリカ オハイオ州)	その他	圧縮機生 産設備等	5,932	1,157				1,491	8,582	6

(注) 帳簿価額には建設仮勘定152,079千円及び消費税等は含んでおりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当社及び連結子会社の設備投資については、中期経営計画をもとに利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。国内子会社については提出会社の投資計画に含めて策定をし、在外子会社については個々に立案しておりますが、全体で重複投資とならないよう調整を図っております。

当連結会計年度末における重要な設備の新設、改修等に係る設備投資金額は2,548百万円であります。その所要資金については自己資金で充当する予定であります。

重要な設備の新設、除去等の計画は、次のとおりであります。

(1) 重要な設備の新設等

当社及び連結子会社における設備の新設等は、以下のとおりであります。

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	平成24年3月末 計画金額(千円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
日本	2,487,826	塗装機器用自動組立装置、圧縮機用加工設備、本社空調機更新など	自己資金
ヨーロッパ	29,372	塗装機器用マシニングセンターなど	同上
アジア	31,300	圧縮機用平面研削盤など	同上
合計	2,548,498		

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	189,290,000
計	189,290,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,365,505	43,365,505	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数1,000株である
計	43,365,505	43,365,505		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成19年10月24日	797,000	46,165,505		3,354,353		1,380,380
平成22年9月27日	500,000	45,665,505		3,354,353		1,380,380
平成23年1月12日	600,000	45,065,505		3,354,353		1,380,380
平成23年3月23日	700,000	44,365,505		3,354,353		1,380,380
平成23年12月28日	1,000,000	43,365,505		3,354,353		1,380,380

(注) 自己株式の消却による減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	31	25	102	48	1	3,487	3,694	-
所有株式数(単元)	0	15,847	217	4,417	1,078	2	21,657	43,218	147,505
所有株式数の割合(%)	0.00	36.67	0.50	10.22	2.49	0.01	50.11	100.00	-

- (注) 1. 自己株式8,481株は「個人その他」に8単元、「単元未満株式の状況」に481株含めて記載しております。なお、期末日現在の株主名簿上の株数と実質保有高は同一であります。
2. 相互保有株式226,684株は「その他の法人」に106単元、「個人その他」に120単元、「単元未満株式の状況」に684株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1丁目13番1号	2,572	5.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,156	5.0
アネスト岩田仕入先持株会	横浜市港北区新吉田町3176番地	2,005	4.6
アネスト岩田得意先持株会	横浜市港北区新吉田町3176番地	1,940	4.5
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,820	4.2
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,498	3.5
株式会社りそな銀行	大阪市中央区備後町2丁目2番1号	1,234	2.8
アネスト岩田従業員持株会	横浜市港北区新吉田町3176番地	1,203	2.8
株式会社常陽銀行	茨城県水戸市南町2丁目5番5号	1,200	2.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,105	2.6
計		16,735	38.60

- (注) 三井住友トラスト・ホールディングス株式会社(共同保有者三井住友信託銀行株式会社、三井住友トランス・アセットマネジメント株式会社、日興アセットマネジメント株式会社)から平成24年4月18日付で提出された変更報告書No.1(商号変更および住所変更)により、同年4月13日現在同社が2,319,000株を保有している旨の報告を受けております。しかし、当社として当事業年度末における同社の実質所有株式数の確認ができていないため、上記大株主には含めておりません。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 8,000		
	(相互保有株式) 普通株式 226,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,984,000	42,984	
単元未満株式	普通株式 147,505		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	43,365,505		
総株主の議決権		42,984	

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アネスト岩田株式会社	横浜市港北区新吉田町3176 番地	8,000		8,000	0.02
(相互保有株式) 株式会社海南	東京都渋谷区代々木2丁目 20番地17号	106,000	120,000	226,000	0.52
計		114,000	120,000	234,000	0.54

(注) 他人名義で所有している理由等

所有理由	名義人の氏名又は名称	名義人の住所
加入持株会における共有持分数	アネスト岩田得意先持株会	横浜市港北区新吉田町3176番地

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第3号及び会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第155条第3号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成23年8月18日)での決議状況 (取得日 平成23年8月19日)	641,000	216,017
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	641,000	216,017
残存決議株式の総数及び評価の総額	0	0
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0	0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	0	0

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(平成23年11月17日)での決議状況 (取得日 平成23年11月18日)	348,000	113,100
当事業年度前における取得自己株式		
当事業年度における取得自己株式	348,000	113,100
残存決議株式の総数及び評価の総額	0	0
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	0	0
当期間における取得自己株式		
提出日現在の未行使割合(%)	0	0

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

会社法第155条第7号による普通株式の取得

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,300	524
当期間における取得自己株式	400	153

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式	1,000,000	333,886		
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他()				
保有自己株式数	8,481		8,881	

(注) 当期間における処分自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する安定的な利益還元を努めることを重要な使命であると考え、業績に裏付けられた安定配当を維持していくことを基本方針としております。具体的には配当性向30%（連結当期純利益基準）を基準とし、最低でも1株当たり年間3円配当は堅持してまいります。また、今後も機動的に自己株式の消却を進め、1株当たりの純資産の増加に努めてまいります。

当社は会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

第66期の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年11月8日 取締役会決議	218,525	5.0
平成24年6月26日 定時株主総会決議	216,785	5.0

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第62期	第63期	第64期	第65期	第66期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	857	469	340	478	448
最低(円)	345	210	240	220	302

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年 10月	11月	12月	平成24年 1月	2月	3月
最高(円)	340	330	339	357	364	400
最低(円)	306	302	304	310	334	354

(注) 最高・最低株価は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員 の 状 況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役	会長	森本 潔	昭和20年7月18日生	昭和43年3月 当社入社 平成6年6月 当社取締役 経営企画室長 平成8年6月 当社常務取締役 平成9年6月 当社代表取締役社長 平成20年4月 当社代表取締役会長(現)	(注)3	101
代表取締役	社長	壺田 貴弘	昭和32年5月15日生	昭和56年4月 当社入社 平成12年4月 当社塗装システム部長 平成13年6月 当社取締役 塗装システム部長 平成15年4月 当社塗装機事業統括・塗装機器部長兼塗装システム部長 平成16年4月 当社塗装機部長 平成20年4月 当社代表取締役社長(現) ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.代表取締役(現) ANEST IWATA SEGI Corp.代表取締役(現) 平成21年11月 杭州阿耐思特岩田友佳空圧機有限公司代表取締役(現)	(注)3	43
取締役	管理部長	飯田 紀之	昭和30年2月1日生	昭和52年4月 当社入社 平成11年4月 当社経営企画室長 平成13年6月 当社取締役(現)経営企画室長 平成15年4月 当社圧縮機事業統括・小形圧縮機部長兼中形圧縮機部長 平成16年4月 当社圧縮機部長 平成20年4月 当社経営管理部長 平成23年4月 当社管理部長(現)	(注)3	49
取締役	生産部長	平瀬 彰	昭和28年5月26日生	昭和52年4月 当社入社 平成16年11月 アネスト岩田福島株式会社代表取締役社長 平成19年4月 アネスト岩田株式会社福島工場長 平成20年4月 当社生産部長(現) 平成20年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	21
取締役	経理部長	古賀 弘志	昭和33年2月13日生	平成16年9月 当社入社 平成17年4月 当社関係会社管理室長 平成21年4月 当社執行役員 平成23年4月 当社経理部長(現) 平成23年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	13
取締役	-	町田 厚美	昭和25年10月21日生	昭和48年4月 山武ハネウエル株式会社入社 平成2年2月 矢矧コンサルタンツ株式会社入社 平成2年10月 株式会社ジェイコム日本経営入社 平成8年3月 学校法人産業能率大学入職 平成13年12月 株式会社フューチャーネクスト代表取締役(現) 平成23年6月 当社取締役就任(現)	(注)3	
監査役 (常勤)	-	岩田 一	昭和35年11月4日生	昭和63年10月 当社入社 平成12年4月 当社塗装機器部長 平成13年6月 当社取締役就任 塗装機器部長 平成14年4月 嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司代表取締役 平成15年4月 当社国内営業統括・東日本営業部長 平成20年4月 当社圧縮機部長 平成21年4月 当社経営企画室長 平成23年6月 当社監査役(現)	(注)4	111

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	-	腰越 勉	昭和29年7月 24日生	昭和52年4月 丸善株式会社入社 昭和59年1月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法人 トーマツ)入所 昭和62年3月 公認会計士登録 腰越公認会計士事務所開設(現) 昭和62年6月 税理士登録 昭和62年8月 青南監査法人入所 平成2年10月 株式会社未来会計社代表取締役(現) 平成7年4月 立教大学非常勤講師 平成16年6月 当社監査役(現) 平成19年1月 株式会社清水会計センター代表取締役(現) 平成24年3月 日栄監査法人代表社員(現)	(注)4	
監査役	-	高山 昌茂	昭和36年9月 26日生	昭和61年8月 大原簿記学校会計士科専任講師 昭和62年9月 英和監査法人(現有限責任あずさ監査法人) 入所 平成2年2月 協和監査法人入所 平成2年8月 公認会計士登録 平成8年10月 日本公認会計士協会非営利法人委員会専門 委員(現) 平成10年2月 協和監査法人 社員 平成14年4月 税理士法人協和会計事務所 社員 平成19年1月 協和監査法人 代表社員(現) 税理士法人協和会計事務所代表社員(現) 平成19年4月 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科 特任 教授 平成19年9月 内閣府 公益認定等委員会 参与 平成23年2月 文部科学省独立行政法人評価委員会臨時委 員(現) 平成24年6月 当社監査役(現)	(注)4	
監査役	-	森 敏文	昭和21年1月 30日生	昭和43年4月 三菱商事株式会社入社 昭和55年6月 米国スタンフォード大学 MBA取得 平成5年8月 欧阿中東三菱商事株式会社 副社長 平成7年12月 米国三菱商事株式会社 副社長兼グループCOO 平成12年6月 三菱製紙株式会社入社 Mitsubishi Hitec Paper Bielefeld GmbH 取 締役社長兼CEO Mitsubishi Hitec Paper Flensburg GmbH 取 締役社長兼CEO Mitsubishi Paper GmbH 取締役社長兼CEO Mitsubishi Paper Holding (Europe) GmbH 取 締役社長兼CEO 平成16年6月 三菱製紙株式会社 上席執行役員 平成19年8月 Heidrick & Struggles(Japan) 代表兼マネー ジングパートナー 平成23年6月 株式会社ウイルビー・インターナショナル顧 問(現) 平成24年4月 株式会社コーチ・エイ顧問(現) 平成24年6月 当社監査役(現)	(注)4	
計						338

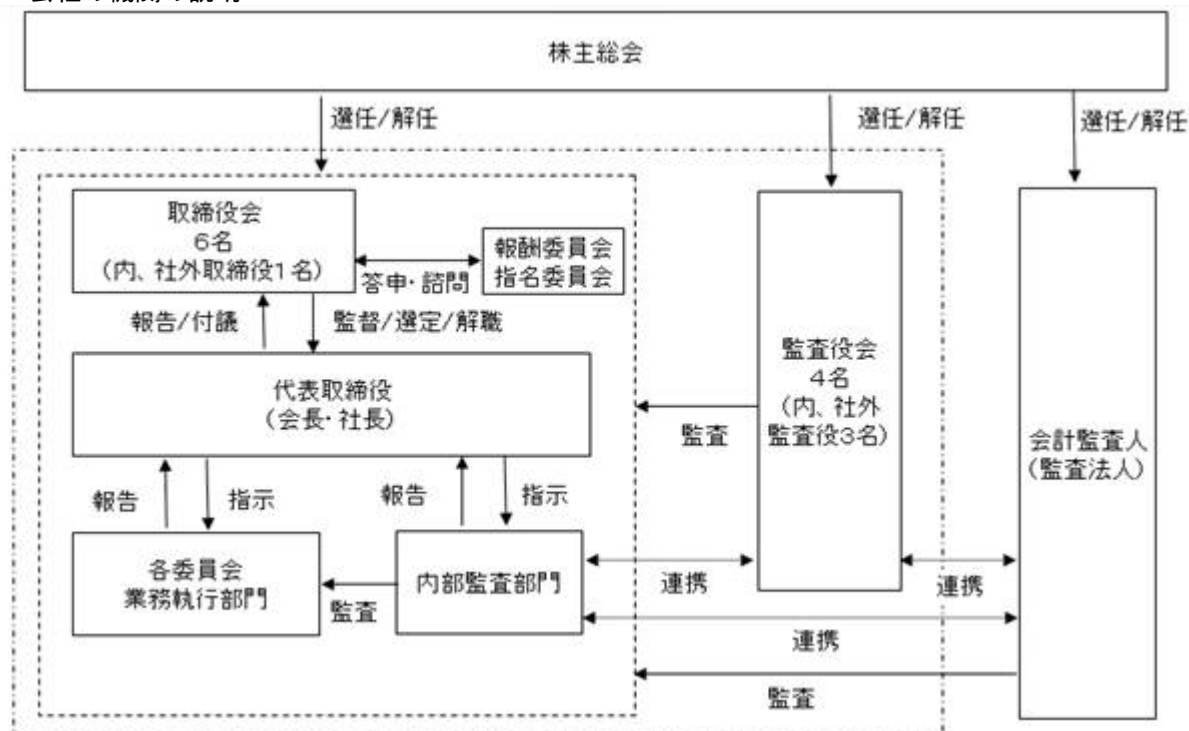
- (注) 1. 取締役 町田厚美は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
 同氏は東京証券取引所の定める独立性の要件を満たしており、独立役員として届け出ています。
2. 監査役 腰越勉、高山昌茂、森敏文の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
 上記3氏は東京証券取引所の定める独立性の要件を満たしており、独立役員として届け出ています。
3. 任期は平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。
4. 任期は平成24年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までです。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

- 1) 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況
 会社の機関の説明



(a) 取締役会

- ・取締役会の員数は6名以内とし、その解任は株主総会の特別決議によるものと定めております。
- ・現在、取締役会は、社外取締役1名を含む6名で構成しております。
- ・取締役会は、月に1回の定期開催のほか、必要に応じて臨時に開催し、迅速な意思決定を図っております。
- ・取締役会の諮問機関として、報酬委員会・指名委員会を設けています。

(b) 代表取締役

- ・代表取締役は、取締役会長及び取締役社長として2名を選任する旨定めております。
- ・代表取締役は、各業務執行部門に業務を実施させるほか、各種の経営判断に資するため各委員会を編成し審議させております。また、内部監査部門に各委員会・各業務執行部門の業務状況を評価させ、その継続的な改善をおこなっております。

(c) 監査役及び監査役会

- ・当社では、監査役会制度を採用しております。
- ・監査役は4名以内と定めており、現在、社外監査役3名を含む4名であります。また、常勤の監査役は現在1名であります。
- ・監査役を補助する従業員は現在配置しておりませんが、監査役が必要と判断した場合には、内部監査員の中から指名することができる旨定めております。
- ・監査役会は、月1回定期開催する他、必要に応じて臨時に開催しています。

- ・各監査役は、取締役会に出席し、積極的に意見を述べております。
- ・内部監査部門及び会計監査人とは監査計画や監査結果についての情報交換を定期的に行っております。

内部統制の整備状況

- (a)「就業規則」等において、法令、定款及び社内規程等を遵守することを義務付けています。
- (b)アネスト岩田グループで働く全ての者が責任のある行動を取るための指針とするため、「行動規範」を定め、浸透を図っています。
- (c)内部通報窓口を設置し、不正リスクを軽減させるとともに、法令上疑義のある行為を早期に発見・対応する体制を構築しています。
- (d)法務部門を設置し法務研修等により継続的なコンプライアンスの指導を行うとともに、内部監査部門の配置によりその浸透状況を確認しています。
- (e)組織の構成と各組織の業務を明確にし、また、権限の範囲を定めるため、組織規程を設けています。

会計監査の状況

当社は青南監査法人と監査契約を締結しており、小平修、齋藤敏雄の2名の公認会計士により会計監査が執行されております。

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士7名であります。

監査役は、会計監査に立ち会うとともに、3ヶ月に1回の頻度で会計監査報告や必要に応じて行う報告を受けています。その他に会計監査計画の立案及びその体制検討等を監査役と会計監査人で協議しています。

当社は定款において、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議によって同法423条第1項に規定する会計監査人（会計監査人であったものも含む）の損害賠償責任を法令の限度において免除することができる旨を定め、会社法第427条第1項の規定に基づき下記内容の責任限定契約を結んでいます。

会計監査人に悪意または重大な過失があった場合を除き、報酬その他の職務執行の対価として当社から受ける財産上の利益の額の事業年度ごとの合計額のうち最も高い額に2を乗じた額をもって、損害賠償責任の限度としております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名であります。当社は、経営の監視・監督機能を強化するため、社外取締役及び社外監査役を選任しております。社外取締役は、当社と直接の利害関係のない有識者や経営者等から選任し、当社の業務執行に携わらない客観的な立場からの経営判断をすることで、取締役会の監督機能強化を図っております。社外監査役は、監査体制の独立性を高め、客観的な立場から監査意見を表明することで、当社の企業統治の有効性に大きく寄与するものと考えております。

社外取締役1名及び社外監査役3名とは、会社法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約の内容は、職務を行うにあたり善意でかつ重大な過失がないときは、損害賠償責任の限度を会社法第425条第1項に規定する最低責任限度額と限定しております。

社外取締役町田厚美氏は、経営コンサルタントとしての豊富な経験と幅広い知見を有していることから社外取締役としての監督機能及び役割を果たしていただけていると考えております。当社と同氏の間には、それ以外の人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は株式会社フューチャーネクスト代表取締役を兼任しておりますが、当社グループと同社及びその関係会社との間に人的関係、資本的関係及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外取締役として選任しております。

社外監査役腰越勉氏は、公認会計士・税理士としての豊富な経験と幅広い知見を有していることから社外監査役としての監督機能及び役割を果たしていただけたと考えております。当社と同氏の間には、それ以外の人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は株式会社未来会計社代表取締役、株式会社清水会計センター代表取締役、日栄監査法人代表社員を兼任しておりますが、当社グループとそれらの会社及びその関係会社との間に人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

社外監査役高山昌茂氏は、公認会計士・税理士としての豊富な経験と幅広い知見を有していることから社外監査役としての監督機能及び役割を果たしていただけたと考えております。当社と同氏の間には、それ以外の人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は協和監査法人代表社員、税理士法人協和会計事務所代表社員を兼任しておりますが、当社グループとそれらの会社及びその関係会社との間に人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

社外監査役森敏文氏は、国内・海外の企業経営者として豊富な経験と幅広い知見を有していることから社外監査役としての監督機能及び役割を果たしていただけたと考えております。当社と同氏の間には、それ以外の人的関係、資本的关系及び重要な取引関係その他の利害関係はありません。以上のことから、独立性を有するものと考え、社外監査役として選任しております。

当社において、社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性について特段の定めはありませんが、専門的な知見に基づく客観的かつ適切な監督又は監査といった機能及び役割が期待され、一般株主と利益相反が生じるおそれがないことを基本的な考え方として、東京証券取引所の規定等を参考に選任しております。

2) リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制の整備状況としてはリスク危機管理規程を制定し、万一の場合の基本的な対応を取り決めております。さらに、危機管理委員会を設置し、リスクの予防及び有事の場合の対応を含めたリスクマネジメント体制を構築しております。

3) 役員報酬の内容

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	129	91		28	9	6
監査役 (社外監査役を除く。)	17	15		2		2
社外役員	16	11		4		4

(注) 1 平成20年6月26日開催の第62期定時株主総会決議による取締役報酬限度額は年額2億円以内、平成18年6月27日開催の第60期定時株主総会決議による監査役報酬限度額は5千万円以内であります。

2 上記は提出会社の状況です。

3 賞与は、当期の役員賞与引当金繰入額であります。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の 員数(名)	内容
39	4	管理部長、経理部長、経営企画室、生産部長を兼務。

役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社の役員に対する報酬は、株主総会で決定された限度額の範囲内で、毎月の定期同額給与と年1回の業績連動給与(役員賞与)によって構成しております。

<平成24年3月期の業績に係る取締役賞与の算定方法>

利益連動給与の計算方法については以下のとおりです。

計算方法

$$\text{業績連動給与} = \text{連結経常利益} \times 1.25\% \times \frac{\text{各取締役のポイント}}{\text{取締役のポイント合計}}$$

取締役の役位別ポイント及び人数

役職	ポイント	人数	ポイント計
会長	1.00	1	1.00
社長	1.00	1	1.00
専務	0.70	0	0.00
常務	0.50	0	0.00
使用人兼務取締役	0.30	3	0.90
計		5	2.90

上記は、平成24年6月26日現在における取締役の数で計算しております。

留意事項

- ・取締役は、法人税法第34条第1項第3号に記載される業務執行役員です。
- ・法人税法第34条第1項第3号イに規定する「当該事業年度の利益に関する指標」とは連結経常利益とします。
- ・法人税法第34条第1項第3号イ(1)に規定する「確定額」は、1億円を限度とします。連結経常利益に1.25%を乗じた金額が1億円を超えた場合は、1億円を各取締役のポイント数で割り振り計算した金額をそれぞれの業績連動給与とします。

4) 取締役の選任、解任の決議要件と取締役の任期

当社は、取締役の選任決議は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の過半数をもって行う旨、また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款で定めております。

当社は、取締役の解任決議は、株主総会において議決権を行使することができる株主の議決権の過半数を有する株主が出席し、出席した当該株主の議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。

当社は、取締役の事業年度に関する責任をより明確にし、変化の激しい経営環境に迅速に対応するための経営体制構築のため、取締役の任期を、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨を定款で定めております。

5) 株主総会決議事項を取締役会で決議できることとしている事項

自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、機動的な資本政策の遂行を目的として、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を目的として、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

取締役、監査役、会計監査人の責任免除

当社は、取締役、監査役、会計監査人が期待される役割を十分に発揮できることを目的として、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって、会社法第423条第1項の取締役(取締役であった者を含む。)、監査役(監査役であった者を含む。)、会計監査人(会計監査人であった者を含む。)の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款で定めております。

6) 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会の円滑な運営を目的として、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって

行う旨を定款で定めております。

7) 株式会社の支配に関する基本方針

a. 当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上の取り組み

当社は、大正15年に創業以来、「誠心」を社是として、常に「お客様の立場に立ち、誠心を込めて製品やサービスをお届けする。」ことを実行してまいりました。品質向上・技術革新に努め、お客様のご支持をいただき、圧縮機・真空機器・塗装機器の専門メーカーとして、世界No.1を目指す企業へと成長してまいりました。

「収益に徹底して固執する」「次なる成長へ向けて事業規模の拡大に挑戦する」「困難な経営課題の改革にスピードをもって取り組む」「社会的規範・環境保全を重視し、社会に貢献する」を基本方針と定め、長期的成長に向けた基盤整備を進めてまいります。社是の具体化を目指して更なる品質向上・技術革新に努めるとともに、事業規模の拡大・社会への貢献を実行することが、当社の企業価値を長期にわたり向上させ、株主共同の利益の確保・向上に資するものと考えております。

b. 本方針の目的と基本的な考え方

当社取締役会は、上場会社として当社株式の自由な売買を認める以上、当社の取締役会の賛同を得ずに行われる、いわゆる「敵対的買収」であっても、企業価値・株主共同の利益に資するものであれば、これを一概に否定するものではありません。特定の者の大規模買付行為に応じて当社株式の売却を行うか否かは、最終的には当社株式を保有する株主の皆様の判断に委ねられるべきものであると考えます。

しかしながら、株式の大規模買付者の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益を著しく毀損するもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大規模買付の内容等について検討し或いは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に資さないものも少なくありません。そのため、当社取締役会としては企業価値・株主共同の利益の保護及び株主の皆様への買い付けに応じるか否かを適切に判断して頂く時間を確保することを目的として大規模買付行為に関するルール（以下「大規模買付ルール」といいます。）を導入いたしました。

なお、現時点において、当社株式について具体的な大規模買付行為の兆候があるとの認識はありません。

c. 大規模買付ルールの内容

大規模買付ルールとは、大規模買付者が事前に当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、それに基づき当社取締役会が当該大規模買付行為について評価・検討を行うための期間が経過した後大規模買付行為が開始されるというものです。

大規模買付ルールの概要は、以下のとおりです。

(イ) 対象となる大規模買付行為

本方針は以下の または に該当する当社株式の買付けまたはこれらに類似する行為（ただし、当社取締役会が承認したものを除きます。当該行為を、以下「大規模買付行為」といいます。）は予め本方針に定める手続きに従わなければならないものとし、

大規模買付ルールの概要は、以下のとおりです。

当社が発行者である株券等（注1）について、保有者（注2）の株券等保有割合（注3）が20%以上となる買付け

当社が発行者である株券等（注4）について、公開買付け（注5）に係る株券等の株券等保有割合（注6）及びその特別関係者（注7）の株券所有割合の合計が20%以上となる買付け

注1 金融商品取引法第27条の23第1項に規定する株券等を行います。以下別段の定めがない限り同じとします。

注2 金融商品取引法第27条の23第1項に規定する保有者を行い、同条第3項に基づき保有者とみなされる者を含む

ものとし、以下同じとします。

注3 金融商品取引法第27条の23第4項に規定する株券等保有割合をいいます。以下同じとします。

注4 金融商品取引法第27条の2第1項に規定する株券等をいいます。以下において同じとします。

注5 金融商品取引法第27条の2第6項に規定されます。以下同じとします。

注6 金融商品取引法第27条の2第8項に規定する株券等所有割合をいいます。以下同じとします。

注7 金融商品取引法第27条の2第7項に規定する特別関係者をいいます。ただし、同項第1号に掲げる者については、発行者以外の者による株券等の公開買付けの開示に関する内閣府令第3条第2項で定める者を除きます。以下同じとします。

(ロ) 大規模買付情報の提供

大規模買付行為を実施しようとする大規模買付者には、大規模買付行為に先立ち、当社取締役会に対し、大規模買付者の名称、住所、設立準拠法、代表者の氏名、国内連絡先及び提案する大規模買付行為の概要を明示した大規模買付ルールに従う旨の「意向表明書」をご提出いただいたうえで、当社取締役会に対して、当社株主の皆様の判断及び当社取締役会としての意見形成のために必要かつ十分な情報（以下「本必要情報」といいます。）を提供していただきます。当社取締役会は、意向表明書の受領後10営業日以内に、大規模買付者から当初提供いただくべき本必要情報のリストを当該大規模買付者に交付します。当初提供していただいた情報を精査した結果、それだけでは不十分と認められる場合には、当社取締役会は、大規模買付者に対して本必要情報が揃うまで追加的に情報提供を求めます。本必要情報の具体的内容は大規模買付者の属性及び大規模買付行為の内容によって異なりますが、一般的な項目は以下のとおりです。

大規模買付者及びそのグループ（共同保有者、特別関係者及び（ファンドの場合は）各組合員その他の構成員を含みます。）の概要（大規模買付者の事業内容、資本構成、当社及び当社グループの事業と同種の事業についての経験等に関する情報を含みます。）

大規模買付行為の目的及び内容（買付等の対価の価額・種類、買付等の時期、関連する取引の仕組み、買付等の方法の適法性、買付等及び関連する取引の実現可能性等を含みます。）

当社株式の取得対価の算定根拠及び取得資金の裏付け（資金の提供者（実質的提供者を含みます。）の具体的な名称、調達方法、関連する取引の内容を含みます。）

当社及び当社グループの経営に参画した後に想定している経営者候補（当社及び当社グループの事業と同種の事業についての経験等に関する情報を含みます。）、経営方針・経営理念、事業計画、財務計画、資本政策、配当政策、資産活用策等

当社及び当社グループの取引先、顧客、従業員等のステークホルダーと当社及び当社グループとの関係に関し、大規模買付行為完了後に予定する変更の有無及びその内容

その他大規模買付行為の妥当性及び適法性等を判断するために当社取締役会または独立委員会が合理的に必要なと判断する情報

注8 独立委員会は、当社取締役会から独立した第三者機関として、本方針が取締役の保身のために利用されないよう監視するとともに、企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に反する買付けを抑止するという働きを担います。独立委員会は、公正で合理的な判断を可能にするために、当社の業務執行を行う経営陣から独立し、当社及び当社取締役会との間に特別の利害関係を有していない当社社外監査役、弁護士、公認会計士、学識経験者、投資銀行業務に精通している者、実績ある会社経営者等の中から選任され、計3名以上の委員で構成されます。現在は、社外取締役1名と社外監査役3名の計4名が就任しています。

なお、大規模買付行為の提案があった事実及び当社取締役会に提供された本必要情報は、当社株主の皆様判断のために必要であると認められる場合には、当社取締役会が適切と判断する時点で、その全部または一部を開示します。

(ハ) 取締役会による評価期間

当社取締役会は、大規模買付行為の評価等の難易度に応じ、大規模買付者が当社取締役会に対し本必要情報の提供を完了した後、60日間（対価を現金（円貨）のみとする公開買付けによる当社全株式の

買付けの場合)または90日間(その他の大規模買付行為の場合)を当社取締役会による評価・検討・交渉、取締役会としての意見形成および取締役会による代替案立案のための期間(以下「取締役会評価期間」といいます。)として与えられるべきものと考えます。取締役会評価期間中、当社取締役会は、独立委員会に諮問し、また、必要に応じて外部専門家等の助言を受けながら、提供された本必要情報を十分に評価・検討し、独立委員会からの勧告を最大限尊重したうえで、当社取締役会としての意見を慎重にとりまとめ、公表します。また、必要に応じ、大規模買付者との間で大規模買付行為に関する条件改善について交渉し、当社取締役会として当社株主の皆様に対し代替案を提示することもあります。なお、当社取締役会は、本必要情報の提供が完了した場合には、速やかにその旨および取締役会評価期間が満了する日を公表いたします。

(二) 取締役会の決議、および株主総会の開催

当社取締役会は、対抗措置の発動の是非について判断を行う場合は、独立委員会の勧告を最大限尊重し、対抗措置の必要性、相当性等を十分検討したうえで対抗措置発動または不発動等に関する会社法上の機関としての決議を行うものとします。

また、当社取締役会は、独立委員会が対抗措置の発動について勧告を行い、発動の決議について株主総会の開催を要請する場合には、株主の皆様にも本方針による対抗措置を発動することの可否を十分にご検討いただくための期間(以下「株主検討期間」といいます。)として最長60日間の期間を設定し、当該株主検討期間中に当社株主総会を開催することがあります。

当社取締役会において、株主総会の開催および基準日の決定を決議した場合、取締役会評価期間はその日をもって終了し、ただちに、株主検討期間へ移行することとします。

当該株主総会の開催に際しては、当社取締役会は、大規模買付者が提供した本必要情報、本必要情報に対する当社取締役会の意見、当社取締役会の代替案その他当社取締役会が適切と判断する事項を記載した書面を、株主の皆様に対し、株主総会招集通知とともに送付し、適時・適切にその旨を開示いたします。株主総会において対抗措置の発動または不発動について決議された場合、当社取締役会は、当該株主総会の決議に従うものとします。当該株主総会が対抗措置を発動することを否決する決議をした場合には、当社取締役会は対抗措置を発動いたしません。

8) 株式の保有状況

保有目的が純投資目的以外の目的である投資

株式銘柄数 18銘柄

貸借対照表計上額の合計額 1,481百万円

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)常陽銀行	1,117,341	365	金融機関取引の円滑化を図るため
(株)三菱UFJ フィナンシャル・グループ	458,070	175	金融機関取引の円滑化を図るため
東プレ(株)	252,000	167	有力仕入先として、将来に渡る商品の提供協力関係維持のため
(株)丸山製作所	719,064	125	同業種につき協力関係維持のため
(株)みずほ フィナンシャルグループ	688,760	95	金融機関取引の円滑化を図るため

杉本商事(株)	83,950	67	有望取引先として、継続取引維持のため
(株)横浜銀行	122,905	48	金融機関取引の円滑化を図るため
(株)りそな ホールディングス	101,179	40	金融機関取引の円滑化を図るため
フルサト工業(株)	50,468	37	有望取引先として、継続取引維持のため
第一生命保険(株)	245	30	金融機関取引の円滑化を図るため
ユアサ商事(株)	228,000	23	有望取引先として、継続取引維持のため
(株)宇野澤組鐵工所	127,500	18	同業種につき協力関係維持のため
トラスコ中山(株)	10,541	15	有望取引先として、継続取引維持のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
(株)常陽銀行	1,117,341	423	金融機関取引の円滑化を図るため
東プレ(株)	252,000	218	有力仕入先として、将来に渡る商品の提供協力関係維持のため。
(株)三菱UFJ フィナンシャル・グループ	458,070	188	金融機関取引の円滑化を図るため。
(株)みずほ フィナンシャルグループ	688,760	92	金融機関取引の円滑化を図るため。
杉本商事(株)	83,950	67	有望取引先として、継続取引維持のため
(株)丸山製作所	359,064	65	同業種につき協力関係維持のため。
(株)横浜銀行	122,905	50	金融機関取引の円滑化を図るため。
フルサト工業(株)	50,468	43	有望取引先として、継続取引維持のため
(株)りそな ホールディングス	101,179	38	金融機関取引の円滑化を図るため
ユアサ商事(株)	228,000	32	有望取引先として、継続取引維持のため
第一生命保険(株)	245	28	金融機関取引の円滑化を図るため。
トラスコ中山(株)	10,541	17	有望取引先として、継続取引維持のため
(株)宇野澤組鐵工所	127,500	15	同業種につき協力関係維持のため。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)	監査証明業務に 基づく報酬(千円)	非監査業務に 基づく報酬(千円)
提出会社	27,500		28,000	
連結子会社				
計	27,500		28,000	

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査に当たる予定時間に一般的に相当な単位時間単価を乗することを基準としております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表並びに事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、青南監査法人による監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は連結財務諸表等の適正性を確保するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更についての的確に対応するよう努めております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】
【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,769,728	4,903,195
受取手形及び売掛金	3,576,390	3,803,708 ^{3, 5}
有価証券	100,000	100,000
商品及び製品	1,617,186	2,038,516
仕掛品	117,703	168,583
原材料及び貯蔵品	943,793	1,063,719
繰延税金資産	589,973	541,371
その他	513,044	435,747
貸倒引当金	19,780	19,698
流動資産合計	13,208,039	13,035,143
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7 6,434,691	7 6,360,699
減価償却累計額	3,915,902	3,976,773
建物及び構築物（純額）	2,518,788	2,383,926
機械装置及び運搬具	4,523,582	4,300,389
減価償却累計額	3,644,001	3,486,170
機械装置及び運搬具（純額）	879,581	814,219
土地	7 1,431,832	7 1,431,253
リース資産	625,275	697,423
減価償却累計額	122,209	223,898
リース資産（純額）	503,066	473,524
建設仮勘定	16,987	196,958
その他	2,260,444	2,216,048
減価償却累計額	2,117,845	2,104,734
その他（純額）	142,598	111,314
有形固定資産合計	5,492,854	5,411,197
無形固定資産		
のれん	23,464	18,771
その他	193,986	183,374
無形固定資産合計	217,451	202,145
投資その他の資産		
投資有価証券	1 3,599,038	1 3,636,319
長期貸付金	53,554	48,650
繰延税金資産	847,562	581,365
長期預金	400,000	900,111
その他	2 679,403	2 930,864
貸倒引当金	28,937	29,654
投資その他の資産合計	5,550,621	6,067,656
固定資産合計	11,260,927	11,680,999
資産合計	24,468,966	24,716,142

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,870,554	2,069,260
短期借入金	4 -	4 50,355
1年内返済予定の長期借入金	7 17,119	7 8,712
リース債務	102,736	113,592
未払法人税等	589,472	259,453
賞与引当金	642,988	604,738
役員賞与引当金	35,580	35,496
製品保証引当金	116,379	161,458
災害損失引当金	116,868	-
その他	994,221	1,153,638
流動負債合計	4,485,920	4,456,705
固定負債		
長期借入金	7 47,212	7 35,673
リース債務	453,850	405,714
繰延税金負債	10,422	14,517
退職給付引当金	2,028,020	1,880,855
その他	76,005	70,052
固定負債合計	2,615,511	2,406,813
負債合計	7,101,432	6,863,519
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,354,353	3,354,353
資本剰余金	1,380,380	1,380,380
利益剰余金	12,907,247	13,477,454
自己株式	7,077	2,831
株主資本合計	17,634,903	18,209,356
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,414	34,824
為替換算調整勘定	728,822	862,944
その他の包括利益累計額合計	833,237	897,769
少数株主持分	565,868	541,036
純資産合計	17,367,534	17,852,623
負債純資産合計	24,468,966	24,716,142

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	20,171,000	21,212,262
売上原価	11,714,042	12,576,745
売上総利益	8,456,957	8,635,517
販売費及び一般管理費		
販売手数料	315,561	296,991
荷造運搬費	464,770	512,472
役員報酬及び給料手当	2,335,540	2,379,105
賞与引当金繰入額	326,151	302,018
役員賞与引当金繰入額	35,580	35,496
退職給付費用	208,228	256,792
福利厚生費	516,862	521,552
賃借料	269,487	240,963
製品保証引当金繰入額	115,617	161,485
貸倒引当金繰入額	7,448	12,228
その他	1,717,226	1,872,720
販売費及び一般管理費合計	6,312,474	6,591,827
営業利益	2,144,482	2,043,690
営業外収益		
受取利息	34,263	42,399
受取配当金	34,247	34,912
受取技術料	47,238	49,859
持分法による投資利益	100,391	149,045
その他	84,101	129,410
営業外収益合計	300,243	405,627
営業外費用		
支払利息	3,989	3,623
為替差損	85,159	134,268
その他	29,735	46,472
営業外費用合計	118,884	184,364
経常利益	2,325,841	2,264,953
特別利益		
投資有価証券売却益	² 47,345	² 7,473
固定資産売却益	1,357	660
補助金収入	-	⁶ 55,910
災害損失引当金戻入益	-	7,599
その他	³ 38,593	-
特別利益合計	87,295	71,643
特別損失		
投資有価証券評価損	46,947	-
固定資産売却損	⁴ 86	⁴ 1,204
固定資産除却損	⁴ 10,625	⁴ 53,508
災害損失引当金繰入額	116,868	-
その他	⁵ 24,599	⁵ 14,583
特別損失合計	199,126	69,297
税金等調整前当期純利益	2,214,011	2,267,300
法人税、住民税及び事業税	732,041	637,105
法人税等調整額	59,449	265,767
法人税等合計	791,490	902,872
少数株主損益調整前当期純利益	1,422,521	1,364,427

少数株主利益	43,255	42,245
当期純利益	1,379,265	1,322,181

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	1,422,521	1,364,427
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	182,008	69,590
為替換算調整勘定	326,578	91,420
持分法適用会社に対する持分相当額	90,969	34,216
その他の包括利益合計	599,556	56,047
包括利益	822,964	1,308,380
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	890,236	1,257,649
少数株主に係る包括利益	67,271	50,730

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,354,353	3,354,353
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,354,353	3,354,353
資本剰余金		
当期首残高	1,380,380	1,380,380
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,380,380	1,380,380
利益剰余金		
当期首残高	12,606,035	12,907,247
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	1,379,265	1,322,181
自己株式の消却	624,105	333,886
当期変動額合計	301,211	570,206
当期末残高	12,907,247	13,477,454
自己株式		
当期首残高	252,827	7,077
当期変動額		
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	624,105	333,886
当期変動額合計	245,749	4,245
当期末残高	7,077	2,831
株主資本合計		
当期首残高	17,087,942	17,634,903
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	1,379,265	1,322,181
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	546,961	574,452
当期末残高	17,634,903	18,209,356

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	77,593	104,414
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	182,008	69,590
当期変動額合計	182,008	69,590
当期末残高	104,414	34,824
為替換算調整勘定		
当期首残高	421,801	728,822
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	307,021	134,122
当期変動額合計	307,021	134,122
当期末残高	728,822	862,944
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	344,207	833,237
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	489,029	64,532
当期変動額合計	489,029	64,532
当期末残高	833,237	897,769
少数株主持分		
当期首残高	697,070	565,868
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	131,202	24,831
当期変動額合計	131,202	24,831
当期末残高	565,868	541,036
純資産合計		
当期首残高	17,440,804	17,367,534
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	1,379,265	1,322,181
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	620,231	89,363
当期変動額合計	73,269	485,088
当期末残高	17,367,534	17,852,623

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,214,011	2,267,300
減価償却費	588,662	579,583
のれん償却額	-	4,692
貸倒引当金の増減額（ は減少）	1,433	2,036
賞与引当金の増減額（ は減少）	50,635	37,838
製品保証引当金の増減額（ は減少）	18,348	45,187
災害損失引当金の増減額（ は減少）	116,868	116,868
前受金の増減額（ は減少）	143,504	137,705
未払金の増減額（ は減少）	57,131	275,537
退職給付引当金の増減額（ は減少）	213,151	143,523
前払年金費用の増減額（ は増加）	140,762	251,423
役員賞与引当金の増減額（ は減少）	19,230	83
受取利息及び受取配当金	68,511	77,311
支払利息	3,989	3,623
持分法による投資損益（ は益）	57,978	102,618
固定資産除売却損益（ は益）	9,353	54,052
投資有価証券売却及び評価損益（ は益）	398	7,473
売上債権の増減額（ は増加）	315,168	309,915
たな卸資産の増減額（ は増加）	270,129	682,907
仕入債務の増減額（ は減少）	70,609	280,761
未払消費税等の増減額（ は減少）	26,638	19,082
その他	9,379	105,463
小計	2,758,146	1,769,650
利息及び配当金の受取額	68,511	77,311
利息の支払額	3,989	3,623
法人税等の支払額	202,154	964,151
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,620,514	879,188
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	730,638	762,627
定期預金の払戻による収入	1,300,000	764,044
有形固定資産の取得による支出	471,029	491,549
有形固定資産の売却による収入	8,062	14,571
投資有価証券の取得による支出	1,013,173	162,420
投資有価証券の売却による収入	75,877	57,513
投資有価証券の償還による収入	100,000	302,116
関係会社株式の取得による支出	-	33,000
貸付金の回収による収入	45,483	4,904
出資金の払込による支出	103,554	61,968
子会社株式の取得による支出	114,124	-
その他	13,292	20,685
投資活動によるキャッシュ・フロー	916,388	347,729
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	106,047	50,355
リース債務の返済による支出	88,824	113,197
長期借入金の返済による支出	26,389	15,986
自己株式の取得による支出	378,355	329,641
少数株主からの払込みによる収入	2,695	3,517
配当金の支払額	454,203	418,694
少数株主への配当金の支払額	21,192	10,323
連結子会社の減資による少数株主への支払額	-	3,454
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,072,317	837,426

現金及び現金同等物に係る換算差額	100,587	48,268
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	531,220	354,235
現金及び現金同等物の期首残高	4,507,869	5,039,090
現金及び現金同等物の期末残高	<u>1</u> 5,039,090	<u>1</u> 4,684,854

【継続企業の前提に関する事項】

該当する事項はありません。

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

(イ)連結子会社 27社

アネスト岩田サービス株式会社
アネスト岩田コーティングサービス株式会社
アネスト岩田キャンベル株式会社
アネスト岩田真空サービス株式会社

ANEST IWATA Europe s.r.l.
AIR GUNSA s.r.l.
ANEST IWATA AIR TECH s.r.l.
ANEST IWATA France S.A.
ANEST IWATA (U.K.) Ltd.
Anest Iwata Scandinavia AB
ANEST IWATA Iberica S.L.
ANEST IWATA Deutschland GmbH

阿耐思特岩田産業機械(上海)有限公司
嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司
東莞阿耐思特岩田機械有限公司
阿耐思特岩田(上海)商貿有限公司
ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.
ANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd.
AIR FACTORY ENERGY Ltd.
ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co.,Ltd.
ANEST IWATA SEGI Corp.

ANEST IWATA USA, Inc.
ANEST IWATA-Medea, Inc.
ANEST IWATA AIR ENGINEERING, Inc.
ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA.
ANEST IWATA Australia Pty.Ltd.
ANEST IWATA RUS LLC

アネスト岩田真空サービス株式会社、ANEST IWATA AIR TECH s.r.l.及び阿耐思特岩田(上海)商貿有限公司を設立し、当連結会計年度より連結子会社としております。

(ロ)主要な非連結子会社 0社

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の非連結子会社数 0社

(ロ)持分法適用の関連会社数 6社

Anest Iwata Italia s.r.l.

Powerex-Iwata Air Technology, Inc.

上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司

岩田友嘉精機股分有限公司

杭州阿耐思特岩田友佳空圧機有限公司

株式会社アドバン理研

(ハ)持分法を適用しない非連結子会社数 0社

(ニ)持分法を適用しない関連会社数 1社

株式会社海南

(持分法の適用範囲から除いた理由)

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

(ホ)持分法適用会社の決算日は、連結決算日と異なりますが各社の直近の事業年度にかかる財務諸表を使用しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、アネスト岩田サービス株式会社、アネスト岩田コーティングサービス株式会社、アネスト岩田キャンベル株式会社、アネスト岩田真空サービス株式会社、AIR FACTORY ENERGY Ltd.、ANEST IWATA MOTHERSON Ltd. 及びANEST IWATA MOTHERSON COATING EQUIPMENT Ltd.の決算日は連結決算日と同一であります。その他の連結子会社の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成にあたっては、各連結子会社の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(イ) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

満期保有目的の債券

償却原価法（定額法）

その他有価証券

時価のあるもの

主に決算日の市場価格等に基づく時価法

（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

主に移動平均法による原価法

デリバティブ

時価法

たな卸資産

主に先入先出法による原価法

（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

(ロ) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法によっております。ただし、当社及び国内連結子会社の平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物.....15～50年

機械装置及び運搬具.....4～12年

無形固定資産（リース資産を除く）

主として定額法によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、平成23年3月期以降にリースを開始したのものについては、リース料総額と取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期へ利息法により配分する方法を採用しております。

(ハ) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、連結会社間の債権債務相殺消去後の債権を基準として、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度末における支給見込額を計上しております。

製品保証引当金

売上製品のアフターサービスに対する費用の支出に備えるため、売上高を基準とした過去の経験率による発生見込額を計上しております。

災害損失引当金

震災により損傷した固定資産の原状回復費用等に充てるため、損失負担見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、主として当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、退職一時金制度の適用対象者については、退職給付引当金として1,880,855千円計上し、企業年金基金制度の適用対象者については、年金資産額が退職給付債務見込額に過去勤務債務、数理計算上の差異及び会計基準変更時差異を加減した額を超過しているため、当該超過額392,186千円を前払年金費用として「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示しております。

なお、当社及び国内連結子会社の会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(追加情報)

当社及び国内連結子会社は退職金制度として、退職一時金制度、企業年金基金制度及び確定拠出年金制度を採用しておりますが、平成24年4月1日に制度を改正し、企業年金基金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行いたします。この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理（企業会計基準適用指針第1号）を適用する予定です。

なお、この移行により、翌連結会計年度の特別利益として69,073千円を計上する見込みです。

(二) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債と、収益及び費用は在外子会社等の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて表示しております。

(ホ) のれんの償却方法及び償却期間

5年間の定額法により償却を行っております。

(ヘ) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(ト) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【未適用の会計基準等】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「特別損失」に「災害による損失」として独立掲記しておりましたが金額的重要性が減ったため「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「災害による損失」に表示していた14,981千円、「その他」9,618千円は、「特別損失」の「その他」24,599千円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「前受金の増減額」及び「未払金の増減額」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度から独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた76,994千円は、「前受金の増減額」143,504千円、「未払金の増減額」57,131千円、「その他」9,379千円として組み替えております。

【会計上の見積りの変更】

該当事項はありません。

【追加情報】

(会計上の変更及び過去の誤謬の訂正)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 投資有価証券中の関連会社の株式

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	793,817千円	938,126千円

2 投資その他の資産のその他中の関連会社の出資金

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
	314,674千円	369,310千円

3 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高		386千円
輸出受取手形割引高		1,174千円

4 短期借入金

当社及び一部の連結子会社は運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの契約額	10,094,656千円	8,499,252千円
借入実行残高		
借入未実行残高	10,094,656千円	8,499,252千円

5 連結会計年度末日満期手形の会計処理

手形交換日をもって決済処理しております。なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が連結会計年度の残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
		1,981千円

6 偶発債務

在外子会社の賃貸借契約に対して次のとおり保証を行っております。

ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA.

(ANEST IWATA DO BRAZIL CONSULTORIA TECNICA LTDA . からANEST IWATA DO BRASIL EQUIPAMENTOS DE PINTURA LTDA . へと社名変更した後、再度社名変更しております。)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
		5,688千円

7 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりです。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物	26,524千円	23,358千円
土地	6,471千円	6,093千円
計	32,995千円	29,451千円
1年内返済予定の長期借入金	963千円	906千円
長期借入金	38,849千円	35,673千円
計	39,812千円	36,579千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費に含まれる研究開発費

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	369,559千円	409,246千円

2 投資有価証券売却益

上場株式の売却による利益であります。

3 特別利益その他

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

第一生命保険相互会社の株式会社化に伴い株式の割当を受けたことによる利益34,401千円を含んでおります。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

4 固定資産売却損、固定資産除却損

主に老朽設備の入れ替えによるものです。

5 特別損失その他

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
災害による損失	14,981千円	3,397千円
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3,200千円	
建物解体工事費用等	6,418千円	11,186千円

6 補助金収入

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

該当事項はありません

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

福島県中小企業等グループ施設等復旧整備補助金であります。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	129,350千円
組替調整額	7,560千円
税効果調整前	121,790千円
税効果額	52,200千円
その他有価証券評価差額金	69,590千円

為替換算調整勘定

当期発生額	90,132千円
組替調整額	1,288千円
為替換算調整勘定	91,420千円

持分法適用会社に対する持分相当額

当期発生額	34,216千円
-------	----------

その他の包括利益合計 56,047千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	46,165,505		1,800,000	44,365,505

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却 1,800,000株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	765,857	1,052,324	1,800,000	18,181

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります

当社は、平成22年12月2日開催及び平成23年2月14日開催の取締役会において、会社法第165条3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、次のとおり自己株式を取得いたしました。これにより、自己株式が374,170千円増加しております。

- (1) 取得した株式の種類 当社普通株式
 - (2) 取得した株式の総数 1,039,000株
 - (3) 取得実施日 平成22年12月7日及び平成23年2月15日
- その他に単元未満株式の買取による増加が13,324株あります。

減少数の内訳は、次のとおりであります。

当社は、平成22年9月13日開催の取締役会、平成22年12月20日開催の取締役会及び平成23年3月5日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、次のとおり自己株式を消却いたしました。

これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ624,105千円減少しております。

- (1) 消却した株式の種類 当社普通株式
- (2) 消却した株式の総数 1,800,000株
- (3) 消却実施日 平成22年9月27日、平成23年1月12日、平成23年3月23日

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	226,998	5.0	平成22年3月31日	平成22年6月28日
平成22年11月9日 取締役会	普通株式	226,950	5.0	平成22年9月30日	平成22年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	199,562	4.5	平成23年3月31日	平成23年6月27日

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	44,365,505		1,000,000	43,365,505

(変動事由の概要)

減少数の内訳は、次のとおりであります。

自己株式の消却 1,000,000株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	18,181	990,300	1,000,000	8,481

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります

当社は、平成23年8月18日開催及び平成23年11月17日開催の取締役会において、会社法第165条3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、次のとおり自己株式を取得いたしました。これにより、自己株式が329,117千円増加しております。

- (1) 取得した株式の種類 当社普通株式
 - (2) 取得した株式の総数 989,000株
 - (3) 取得実施日 平成23年8月19日及び平成23年11月18日
- その他に単元未満株式の買取による増加が1,300株あります。

減少数の内訳は、次のとおりであります。

当社は、平成23年12月12日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、次のとおり自己株式を消却いたしました。これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ333,886千円減少しております。

- (1) 消却した株式の種類 当社普通株式
- (2) 消却した株式の総数 1,000,000株
- (3) 消却実施日 平成23年12月28日

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	199,562	4.5	平成23年3月31日	平成23年6月27日
平成23年11月8日 取締役会	普通株式	218,525	5.0	平成23年9月30日	平成23年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	216,785	5.0	平成24年3月31日	平成24年6月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
現金及び預金勘定	5,769,728千円	4,903,195千円
預金期間が3か月を超える定期預金	730,638千円	218,340千円
現金及び現金同等物	5,039,090千円	4,684,854千円

[次へ](#)

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

有形固定資産

主に生産設備、コンピュータであります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

2 リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

「重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相 当額(千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	274,614	211,834	62,780
その他の有形固定資産	5,162	3,269	1,892
その他の無形固定資産	7,504	7,504	
合計	287,280	222,607	64,673

	当連結会計年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相 当額(千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	235,390	204,508	30,882
その他の有形固定資産	5,162	4,301	860
その他の無形固定資産			
合計	240,552	208,810	31,742

2 未経過リース料期末残高相当額等

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	38,222千円	29,337千円
1年超	38,500千円	9,163千円
合計	76,723千円	38,500千円

3 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
支払リース料	50,316千円	41,659千円
減価償却費相当額	40,004千円	32,930千円
支払利息相当額	10,312千円	8,728千円

4 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、事業計画に基づいて、円滑な経営活動を行うための資金の有効な調達及び運用を行っております。一時的な余裕資金の運用については、安全性の高い金融資産に限定して運用する方針であります。この運用にあたっては、満期までの期間が1年を超える金融資産を選択する場合もあります。また、運転資金の調達については、原則として当座貸越契約等による効率的な調達を行います。ただし、設備投資に必要な資金の一部については、ファイナンス・リース取引を利用して調達する場合があります。デリバティブ取引については、リスク回避を目的としたものに限って行う場合がありますが、投機的な取引については、一切行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

現金及び預金には、海外取引の決済等を効率的に行うため外貨建普通預金が含まれており、為替変動のリスクがあります。営業債権である受取手形及び売掛金には、取引先の信用リスクがあります。また、外貨建債権が含まれているため為替変動のリスクもあります。投資有価証券については、主に満期保有目的の債券及び取引先企業の株式であり、市場価格の変動リスクがあります。また、関連会社等に対して長期貸付を行っており、信用リスクがあります。長期預金については、金融機関に対する信用リスク及び金利の変動にともなう市場リスクがあります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、外貨建債務が含まれており、為替変動のリスクがあります。借入金については、主として一時的な運転資金の不足に備えたものであり、リース債務については、主として設備投資の効率的な調達を目的としたものであります。借入金及びリース債務については、金利の変動にともなう市場リスクがあります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権については、販売管理規程に従い、取引先の定期的な調査及び分析、未回収額の迅速な原因分析を行い信用リスクの軽減を行っております。連結子会社についても当社に準じた管理を行っております。

満期保有目的の債券については、信用リスクの僅少な格付けの高い債券のみを対象として取得しております。長期預金については、格付けの高い金融機関に限定し、信用リスクの軽減を行っております。

市場リスクの管理

投資有価証券については、経理規程に従い、定期的に時価及び発行会社の財務状況等を把握し、市場リスクに対する権利の保全に努めております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、資金計画に基づいた資金の有効な調達及び運用を行うことにより、また、当座貸越契約等による運用資金の調達方法の確保により、流動性リスクを低減しております。連結子会社についても当社に準じた管理を行っております。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものにつきましては、次表には含めておりません。

前連結会計年度（平成23年3月31日）

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
現金及び預金（長期預金含む）	6,169,728	6,172,660	2,931
受取手形及び売掛金	3,576,390	3,576,390	
有価証券及び投資有価証券	2,672,414	2,656,315	16,098
資産計	12,418,533	12,405,366	13,167
支払手形及び買掛金	1,870,554	1,870,554	
リース債務（注2）	537,099	541,300	4,200
負債計	2,407,654	2,411,855	4,200

（注1）貸付金、借入金等の重要性がない金融資産・金融負債は除外しております。

（注2）上記のリース債務の連結貸借対照表計上額は、利息相当部分を除いたものです。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
現金及び預金（長期預金含む）	5,803,307	5,806,610	3,303
受取手形及び売掛金	3,803,708	3,803,708	
有価証券及び投資有価証券	2,600,980	2,583,039	17,941
資産計	12,207,995	12,193,357	14,638
支払手形及び買掛金	2,069,260	2,069,260	
リース債務（注2）	506,199	511,128	4,928
負債計	2,575,459	2,580,388	4,928

（注1）貸付金、借入金等の重要性がない金融資産・金融負債は除外しております。

（注2）上記のリース債務の連結貸借対照表計上額は、利息相当部分を除いたものです。

(1) 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資産

現金及び預金（長期預金含む）

定期預金につきましては、元利金の合計額を新規に大口定期預金に預け入れした場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。それ以外の預金は時価が帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

受取手形及び売掛金

すべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

有価証券及び投資有価証券

株式は取引所の価格に、債券は取引金融機関から提示された価格によっております。なお、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項につきましては、「有価証券関係」の注記を参照下さい。

負債

支払手形及び買掛金

すべて短期であるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

リース債務

元利金の合計額を新規に借入した場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

投資有価証券

	平成23年3月31日 (千円)	平成24年3月31日 (千円)
非上場株式(関係会社含む)	1,026,623	1,135,338

(3) 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)
現金及び預金(長期預金含む)			
定期預金	730,638	400,000	
受取手形及び売掛金	3,576,390		
有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的債券			
社債	100,000	350,000	990,000
計	4,407,028	750,000	990,000

(注) 社債にはリパッケージ債を含みます。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)
現金及び預金(長期預金含む)			
定期預金	218,340	900,111	
受取手形及び売掛金	3,803,708		
有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的債券			
社債	100,000	250,000	950,000
計	4,122,049	1,150,111	950,000

(注) 社債にはリパッケージ債を含みます。

(4) リース債務の連結決算後の返済予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)
リース債務	102,736	385,018	68,831

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)
リース債務	113,592	381,387	24,326

(有価証券関係)

(1) 売買目的有価証券

該当事項はありません。

(2) 満期保有目的の債券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
社債	150,000	152,661	2,661
小計	150,000	152,661	2,661
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
社債	1,310,221	1,291,461	18,759
小計	1,310,221	1,291,461	18,759
合計	1,460,221	1,444,122	16,098

(注) 社債にはリパッケージ債を含みます。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの			
社債	150,000	151,236	1,236
小計	150,000	151,236	1,236
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの			
社債	1,167,036	1,147,859	19,177
小計	1,167,036	1,147,859	19,177
合計	1,317,036	1,299,095	17,941

(注) 社債にはリパッケージ債を含みます。

(3) その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	344,073	238,593	105,480
小計	344,073	238,593	105,480
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	868,119	1,149,382	281,262
小計	868,119	1,149,382	281,262
合計	1,212,193	1,387,975	175,782

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額232,772千円)につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

区分	連結決算日における 連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの 株式	317,530	216,597	100,932
小計	317,530	216,597	100,932
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの 株式	966,413	1,121,338	154,924
小計	966,413	1,121,338	154,924
合計	1,283,944	1,337,935	53,991

(注)非上場株式(連結貸借対照表計上額197,180千円)につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「其他有価証券」には含めておりません。

(4)連結会計年度中に減損処理を行った有価証券

前連結会計年度（平成23年3月31日）

当連結会計年度において、有価証券について46,947千円（其他有価証券）減損処理を行っております。

なお、減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

当連結会計年度（平成24年3月31日）

当連結会計年度において、減損処理を行っておりません。

なお、減損処理に当たっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行うこととしております。

(5)連結会計年度中に売却した其他有価証券

株式

前連結会計年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
75,877	47,345	

当連結会計年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

売却額(千円)	売却益の合計額(千円)	売却損の合計額(千円)
57,513	7,473	

[次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

期末残高がないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付型の企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。また、確定拠出年金制度も採用しております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成 23年3月31日)	当連結会計年度 (平成 24年3月31日)
イ 退職給付債務	7,929,407	7,511,106
ロ 年金資産	4,822,033	5,209,933
ハ 未積立退職給付債務(イ+ロ)	3,107,373	2,301,172
ニ 会計基準変更時差異の未処理額	518,261	388,701
ホ 未認識数理計算上の差異	1,315,381	885,183
ヘ 未認識過去勤務債務(債務の減額)	613,528	461,381
ト 連結貸借対照表計上額純額(ハ+ニ+ホ+ヘ)	1,887,258	1,488,669
チ 前払年金費用	140,762	392,186
リ 退職給付引当金(ト-チ)	2,028,020	1,880,855

3 退職給付費用に関する事項

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成 23年3月31日)	当連結会計年度 (平成 24年3月31日)
イ 勤務費用	202,945	196,520
ロ 利息費用	149,720	149,620
ハ 期待運用収益	143,289	159,128
ニ 会計基準変更時差異の費用処理額	129,560	129,560
ホ 数理計算上の差異の費用処理額	292,607	451,333
ヘ 過去勤務債務の費用処理額	152,142	152,147
ト 退職給付費用(イ+ロ+ハ+ニ+ホ+ヘ)	479,401	615,758
チ その他	77,480	77,830
リ 計(ト+チ)	556,881	693,589

(注)「チ その他」は主に確定拠出年金への拠出額であります。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

イ 退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

ロ 割引率

前連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当連結会計年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
1.9%	1.9%

ハ 期待運用収益率

前連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当連結会計年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
3.3%	3.3%

ニ 過去勤務債務の額の処理年数

10年

（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法によることとしております。）

ホ 数理計算上の差異の処理年数

5年

（発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理することとしております。）

ヘ 会計基準変更時差異の処理年数

15年

（税効果会計関係）

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	801,187千円	659,643千円
賞与引当金	259,663千円	227,829千円
棚卸資産未実現利益	147,020千円	154,573千円
その他有価証券評価差額金	71,367千円	19,166千円
その他	281,290千円	502,275千円
繰延税金資産小計	1,560,529千円	1,563,489千円
評価性引当額	65,843千円	299,337千円
繰延税金負債との相殺	57,149千円	141,415千円
繰延税金資産合計	1,437,536千円	1,122,736千円
繰延税金負債		
前払年金費用	57,149千円	141,415千円
在外子会社の繰延税金負債	10,422千円	14,517千円
繰延税金負債小計	67,572千円	155,932千円
繰延税金資産との相殺	57,149千円	141,415千円
繰延税金負債合計	10,422千円	14,517千円
繰延税金資産の純額	1,427,113千円	1,108,218千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異のあるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率 (調整)	40.6%	
試験研究費の特別控除	1.6%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。
持分法投資利益による差異	1.2%	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.0%	
その他	0.9%	
	35.8%	

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前連結会計年度の40.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.9%、平成27年4月1日以降のものについては35.5%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が92,293千円減少し、当連結会計年度に計上された法人税等調整額が89,539千円、その他有価証券評価差額金額が2,753千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

[前へ](#)

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) 各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類

当社グループは、圧縮機、真空機器、塗装機器及び塗装設備を専ら製造販売しており、国内においては当社及び国内連結子会社が、海外においてはヨーロッパ（主にイタリア・フランス・ドイツ）、アジア（主に中国・インド・韓国）等の各地域をそれぞれの現地法人が担当しております。現地法人はそれぞれ独立した経営単位であり、それぞれの取り扱う製品について各地域の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社グループは生産・販売体制を基礎とした所在地別のセグメントから構成されており、「日本」、「ヨーロッパ」、及び「アジア」の3つを報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他（注）	合計
	日本	ヨーロッパ	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,921,368	1,600,256	2,125,054	18,646,679	1,524,321	20,171,000
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,587,550	78,395	74,227	2,740,173	20,141	2,760,315
計	17,508,918	1,678,651	2,199,282	21,386,852	1,544,462	22,931,315
セグメント利益	2,483,269	84,684	161,065	2,729,018	71,271	2,800,290
セグメント資産	16,442,391	1,195,442	1,986,244	19,624,078	1,009,732	20,633,811
その他の項目						
減価償却費	490,348	28,524	60,796	579,669	7,223	586,892
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	616,100	14,065	51,842	682,008	7,185	689,193

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア、ロシア、ブラジル及びアメリカの現地法人の事業活動であります。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他（注）	合計
	日本	ヨーロッパ	アジア	計		
売上高						
外部顧客への売上高	15,395,843	1,609,037	2,715,995	19,720,876	1,491,385	21,212,262
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,467,286	107,473	141,523	2,716,283	19,174	2,735,457
計	17,863,130	1,716,510	2,857,518	22,437,159	1,510,559	23,947,719
セグメント利益	2,443,216	69,892	229,664	2,742,773	17,568	2,760,342
セグメント資産	16,344,403	1,249,756	2,114,653	19,708,814	928,113	20,636,927
その他の項目						
減価償却費	487,735	21,371	59,941	569,049	8,895	577,944
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	406,056	32,216	160,388	598,662	27,205	625,867

（注）「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、オーストラリア、ロシア、ブラジル及びアメリカの現地法人の事業活動であります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	21,386,852	22,437,159
「その他」の区分の売上高	1,544,462	1,510,559
セグメント間取引消去	2,760,315	2,735,457
連結財務諸表の売上高	20,171,000	21,212,262

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	2,729,018	2,742,773
「その他」の区分の利益	71,271	17,568
全社費用（注）	614,844	694,516
セグメント間取引消去	40,962	22,136
連結財務諸表の営業利益	2,144,482	2,043,690

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	19,624,078	19,708,814
「その他」の区分の資産	1,009,732	928,113
全社資産（注）	5,083,668	5,168,678
セグメント間取引消去	1,248,513	1,089,463
連結財務諸表の資産合計	24,468,966	24,716,142

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金及び長期投資資金であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	579,669	569,049	7,223	8,895	1,770	1,639	588,662	579,583
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	682,008	598,662	7,185	27,205			689,193	625,867

【関連情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	圧縮機	真空機器	塗装機器	塗装設備	合計
外部顧客への売上高	9,358,355	1,852,675	7,549,510	1,410,458	20,171,000

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
12,400,241	2,527,415	3,020,934	2,222,408	20,171,000

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
4,859,562	529,192	104,099	5,492,854

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社海南	2,377,561	日本

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	圧縮機	真空機器	塗装機器	塗装設備	合計
外部顧客への売上高	10,334,658	1,609,907	7,654,549	1,613,147	21,212,262

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	ヨーロッパ	アジア	その他	合計
12,806,196	2,792,928	3,552,869	2,060,267	21,212,262

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
4,716,926	578,023	116,247	5,411,197

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社海南	2,571,439	日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
 該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	調整額	合計
	日本	ヨーロッパ	アジア	計			
当期償却額							
当期末残高	23,464			23,464			23,464

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	調整額	合計
	日本	ヨーロッパ	アジア	計			
当期償却額	4,692			4,692			4,692
当期末残高	18,771			18,771			18,771

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
 該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の関連会社

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

種類	会社の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の 所有(被所有)割合 (%)	関連当事者との 関係	取引の 内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
関連会社	(株)海南	東京都 渋谷区	85,000	圧縮機、真空 機器、塗装機 器、塗装設備 の販売	直接 25.07	当社製品の 購入など 役員の兼 任なし	製品の 販売	795,879	売掛金	501,141

(注) 1. 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方法等

取引については、一般の取引条件と同様に決定しております。

3. 期中より関連当事者となり、取引金額は第4四半期からの金額となっております。

なお、(株)海南との当連結会計年度の取引金額は2,571,439千円となっております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	378円87銭	1株当たり純資産額	399円28銭
1株当たり当期純利益	30円53銭	1株当たり当期純利益	30円17銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載してありません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載してありません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(千円)	1,379,265	1,322,181
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,379,265	1,322,181
期中平均株式数(株) (普通株式)	45,172,656	43,817,960

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金		50,355	2.6	
1年以内に返済予定の長期借入金	17,119	8,712	2.2	
1年以内に返済予定のリース債務	102,736	113,592		
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	47,212	35,673	5.7	平成25年4月1日～ 平成63年6月15日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	453,850	405,714		平成25年9月23日～ 平成30年4月27日
合計	620,918	614,047		

- (注) 1 「平均利率」については、借入金等の期中平均に対する加重平均利率を使用しております。
2 リース債務については平成22年3月期以前に開始したリースについては、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各連結会計年度に配分しているため、平均利率を記載しておりません。
なお、平成23年3月期以降に開始したリースについての平均利率は1.25%です。
3 長期借入金、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	906	906	906	906
リース債務	111,353	103,593	99,593	66,847

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	4,990,830	10,747,257	15,462,074	21,212,262
税金等調整前四半期(当期)純利益金額(千円)	457,204	1,159,081	1,563,966	2,267,300
四半期(当期)純利益金額(千円)	275,220	722,618	889,614	1,322,181
1株当たり四半期(当期)純利益金額	6円21銭	16円36銭	20円24銭	30円17銭

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額	6円21銭	10円16銭	3円84銭	9円98銭

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,291,987	3,759,775
受取手形	¹ 322,268	^{1, 2, 4} 7,292
売掛金	¹ 2,903,527	¹ 3,003,463
有価証券	100,000	100,000
商品及び製品	784,541	992,341
仕掛品	79,363	115,907
原材料及び貯蔵品	789,473	840,746
前渡金	¹ 52,863	1,890
繰延税金資産	400,607	342,151
未収入金	¹ 195,814	¹ 193,654
その他	23,609	43,068
貸倒引当金	2,593	2,477
流動資産合計	9,941,464	9,397,814
固定資産		
有形固定資産		
建物	5,551,252	5,493,681
減価償却累計額	3,422,466	3,470,208
建物(純額)	2,128,785	2,023,473
構築物	502,106	509,949
減価償却累計額	419,396	423,519
構築物(純額)	82,709	86,429
機械及び装置	3,851,423	3,656,550
減価償却累計額	3,219,545	3,047,591
機械及び装置(純額)	631,877	608,958
車両運搬具	62,312	56,798
減価償却累計額	61,085	56,592
車両運搬具(純額)	1,226	206
工具、器具及び備品	2,052,145	2,007,723
減価償却累計額	1,965,216	1,951,201
工具、器具及び備品(純額)	86,928	56,522
土地	1,422,347	1,422,347
リース資産	625,275	697,423
減価償却累計額	122,209	223,898
リース資産(純額)	503,066	473,524
建設仮勘定	2,319	44,879
有形固定資産合計	4,859,260	4,716,342
無形固定資産		
リース資産	26,408	19,347
借地権	790	790
ソフトウェア	38,548	42,321
ソフトウェア仮勘定	1,450	-
電話加入権	3,916	3,916
電信電話専用施設利用権	1,313	1,146
無形固定資産合計	72,426	67,522
投資その他の資産		
投資有価証券	2,805,187	2,698,160
関係会社株式	1,840,354	1,911,028
出資金	1,200	1,200

関係会社出資金	1,154,150	1,303,874
関係会社長期貸付金	874,974	836,415
長期前払費用	3,197	1,851
繰延税金資産	832,426	565,998
事業保険積立金	90,600	38,710
敷金	81,476	80,564
長期預金	400,000	900,000
前払年金費用	140,762	392,186
その他	84,959	79,998
貸倒引当金	168,909	168,853
投資その他の資産合計	8,140,379	8,641,135
固定資産合計	13,072,067	13,424,999
資産合計	23,013,531	22,822,814

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	1,847	-
買掛金	1,555,828	1,550,298
リース債務	102,736	113,592
未払金	611,134	763,354
未払法人税等	479,591	97,761
未払事業所税	22,724	21,899
未払消費税等	9,913	-
前受金	65,836	5,548
預り金	24,236	25,226
賞与引当金	585,028	541,346
役員賞与引当金	35,580	35,496
製品保証引当金	115,617	160,577
災害損失引当金	116,868	-
その他	4,922	10,261
流動負債合計	3,731,865	3,325,362
固定負債		
リース債務	453,850	405,714
退職給付引当金	1,973,367	1,822,158
資産除去債務	3,200	3,200
その他	57,100	47,912
固定負債合計	2,487,518	2,278,985
負債合計	6,219,383	5,604,348
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,354,353	3,354,353
資本剰余金		
資本準備金	1,380,380	1,380,380
資本剰余金合計	1,380,380	1,380,380
利益剰余金		
利益準備金	838,588	838,588
その他利益剰余金		
別途積立金	9,700,000	9,700,000
繰越利益剰余金	1,632,318	1,982,800
利益剰余金合計	12,170,906	12,521,388
自己株式	7,077	2,831
株主資本合計	16,898,562	17,253,290
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	104,414	34,824
評価・換算差額等合計	104,414	34,824
純資産合計	16,794,148	17,218,465
負債純資産合計	23,013,531	22,822,814

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
製品売上高	1 15,429,416	1 15,366,822
売上高合計	15,429,416	15,366,822
売上原価		
製品期首たな卸高	684,627	784,541
当期製品製造原価	9,843,172	10,139,024
合計	10,527,799	10,923,565
他勘定振替高	2 149,520	2 121,212
製品期末たな卸高	784,541	992,341
売上原価合計	9,593,738	9,810,011
売上総利益	5,835,678	5,556,810
販売費及び一般管理費		
販売手数料	204,855	192,275
荷造運搬費	278,693	319,566
広告宣伝費	64,491	62,056
製品保証引当金繰入額	115,617	160,577
役員報酬	112,098	117,950
従業員給料及び手当	1,391,103	1,282,784
賞与引当金繰入額	269,710	237,780
役員賞与引当金繰入額	35,580	35,496
退職給付費用	196,239	244,299
福利厚生費	304,732	294,057
旅費及び交通費	168,634	153,766
支払手数料	225,839	321,946
通信費	54,097	55,236
減価償却費	105,861	126,574
賃借料	129,780	93,850
貸倒引当金繰入額	-	641
その他	492,581	466,056
販売費及び一般管理費合計	4,149,915	4,164,917
営業利益	1,685,762	1,391,893
営業外収益		
受取利息	1 35,054	1 40,890
受取配当金	1 127,534	1 337,681
受取技術料	1 59,902	1 62,199
その他	55,111	80,823
営業外収益合計	277,602	521,594
営業外費用		
支払利息	713	2,481
為替差損	49,538	94,612
その他	6,159	21,322
営業外費用合計	56,411	118,416
経常利益	1,906,954	1,795,071
特別利益		
投資有価証券売却益	47,074	7,473
災害損失引当金戻入益	-	7,599
貸倒引当金戻入額	13,810	-
補助金収入	-	7 55,910
その他	6 34,401	-
特別利益合計	95,286	70,983

特別損失		
固定資産売却損	-	4 933
固定資産除却損	4 10,400	4 53,454
投資有価証券評価損	5 214,126	5 22,262
災害損失引当金繰入額	116,868	-
その他	8 24,223	8 13,983
特別損失合計	365,618	90,635
税引前当期純利益	1,636,622	1,775,419
法人税、住民税及び事業税	565,825	400,279
法人税等調整額	87,062	272,682
法人税等合計	652,888	672,961
当期純利益	983,734	1,102,457

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)		当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費	1	5,615,706	56.6	5,867,634	57.4
労務費		2,624,035	26.5	2,704,037	26.4
経費		1,680,530	16.9	1,654,643	16.2
(うち外注加工費)	1	(507,295)	(5.1)	(485,469)	(4.7)
(うち減価償却費)		(385,127)	(3.9)	(360,980)	(3.5)
当期総製造費用		9,920,273	100.0	10,226,314	100.0
期首仕掛品棚卸高		67,169		79,363	
合計		9,987,442		10,305,678	
他勘定への振替高	2	64,906		50,746	
期末仕掛品棚卸高		79,363		115,907	
当期製品製造原価	3	9,843,172		10,139,024	

(脚注)

前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1 材料費のうち、関係会社仕入高が820,647千円並びに外注加工費のうち、関係会社外注加工費が63,642千円含まれております。 2 自家使用等64,906千円への振替高であります。 3 製造原価計算方法は工程別実際総合原価計算方法を採用しております。 なお、直接労務費は予定賃率を、製造間接費は予定配賦率を採用し、決算期末において実際額との差額は売上原価と期末棚卸資産に按分しそれぞれに含めて計上しております。	1 材料費のうち、関係会社仕入高が1,322,358千円並びに外注加工費のうち、関係会社外注加工費が62,121千円含まれております。 2 自家使用等50,746千円への振替高であります。 3 同左

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	3,354,353	3,354,353
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	3,354,353	3,354,353
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	1,380,380	1,380,380
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,380,380	1,380,380
資本剰余金合計		
当期首残高	1,380,380	1,380,380
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,380,380	1,380,380
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	838,588	838,588
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	838,588	838,588
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	8,700,000	9,700,000
当期変動額		
別途積立金の積立	1,000,000	-
当期変動額合計	1,000,000	-
当期末残高	9,700,000	9,700,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	2,726,638	1,632,318
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	983,734	1,102,457
自己株式の消却	624,105	333,886
別途積立金の積立	1,000,000	-
当期変動額合計	1,094,320	350,482
当期末残高	1,632,318	1,982,800

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
利益剰余金合計		
当期首残高	12,265,226	12,170,906
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	983,734	1,102,457
自己株式の消却	624,105	333,886
別途積立金の積立	-	-
当期変動額合計	94,320	350,482
当期末残高	12,170,906	12,521,388
自己株式		
当期首残高	252,827	7,077
当期変動額		
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	624,105	333,886
当期変動額合計	245,749	4,245
当期末残高	7,077	2,831
株主資本合計		
当期首残高	16,747,132	16,898,562
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	983,734	1,102,457
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	-	-
当期変動額合計	151,429	354,727
当期末残高	16,898,562	17,253,290
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	77,376	104,414
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	181,791	69,590
当期変動額合計	181,791	69,590
当期末残高	104,414	34,824
評価・換算差額等合計		
当期首残高	77,376	104,414
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	181,791	69,590
当期変動額合計	181,791	69,590
当期末残高	104,414	34,824

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
純資産合計		
当期首残高	16,824,509	16,794,148
当期変動額		
剰余金の配当	453,948	418,088
当期純利益	983,734	1,102,457
自己株式の取得	378,355	329,641
自己株式の消却	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	181,791	69,590
当期変動額合計	30,361	424,317
当期末残高	16,794,148	17,218,465

【継続企業の前提に関する事項】

該当する事項はありません。

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

(子会社出資金及び関連会社出資金を含む)

移動平均法による原価法

(2) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

(3) その他有価証券

時価のあるもの...期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの...移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物.....15～50年

機械及び装置.....7～12年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、平成23年3月期以降にリースを開始したのものについては、リース料総額と取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期へ利息法により配分する方法を採用しております。

4 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、支給見込額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、支給見込額を計上しております。

(4) 製品保証引当金

売上製品のアフターサービスに対する費用の支出に備えるため、売上高を基準とした過去の経験率による発生見込額を計上しております。

(5) 災害損失引当金

震災により損傷した固定資産の原状回復費用等に充てるため、損失負担見込額を計上しております。

(6) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、主として当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、退職一時金制度の適用対象者については、退職給付引当金として1,822,158千円計上し、企業年金基金制度の適用対象者については、年金資産額が退職給付債務見込額に過去勤務債務、数理計算上の差異及び会計基準変更時差異を加減した額を超過しているため、当該超過額392,186千円を前払年金費用として計上しております。

なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理しております。

過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(10年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

(追加情報)

当社及び国内連結子会社は退職金制度として、退職一時金制度、企業年金基金制度及び確定拠出年金制度を採用しておりますが、平成24年4月1日に制度を改正し、企業年金基金制度の一部を確定拠出年金制度へ移行いたします。この移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理(企業会計基準適用指針第1号平成14年1月31日)」を適用する予定です。なお、この移行により、翌事業年度の特別利益として69,073千円を計上する見込みです。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式で処理しております。

【会計方針の変更】

該当事項はありません。

【表示方法の変更】

(貸借対照表関係)

前事業年度において、「投資その他の資産」の「その他」に含めていた「前払年金費用」は金額的重要性が増したため、当事業年度より区分掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「投資その他の資産」の「その他」に表示していた225,721千円は、「前払年金費用」140,762千円と「その他」84,959千円として組み替えております。

(損益計算書関係)

前事業年度において、「特別損失」に「災害による損失」として独立掲記しておりましたが金額的重要性が減ったため「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「特別損失」の「災害による損失」に表示していた14,831千円、「その他」9,391千円は、「特別損失」の「その他」24,223千円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び過去の誤謬の訂正)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 関係会社に係る注記

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれている関係会社に対するものは次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	29,830千円	3,245千円
売掛金	1,142,100千円	1,353,877千円

2 受取手形割引高

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形割引高		386千円
輸出受取手形割引高		1,174千円

3 短期借入金

当社は運転資金の効率的な調達を行なうため、取引銀行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。この契約に基づく当期末の借入未実行残高は次のとおりです。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
当座貸越極度額及び 貸出コミットメントの契約額	9,700,000千円	8,200,000千円
借入実行残高		
借入未実行残高	9,700,000千円	8,200,000千円

4 当事業年度末日満期手形の会計処理

手形交換日をもって決済処理しております。なお、当事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の満期手形が事業年度の残高に含まれております。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
		1,981千円

5 偶発債務

在外子会社の賃貸借契約に対して次のとおり保証を行っております。

ANEST IWATA DO BRASIL COMERCIAL LTDA.

(ANEST IWATA DO BRAZIL CONSULTORIA TECNICA LTDA . からANEST IWATA DO BRASIL EQUIPAMENTOS DE PINTURA LTDA . へと社名変更した後、再度社名変更しております。)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
		5,688千円

(損益計算書関係)

1 関係会社に係るものは次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	4,477,424千円	5,447,715千円
受取配当金	93,296千円	302,768千円
受取技術料	59,902千円	62,199千円

2 他勘定振替高

保証代品の出荷、自家使用等によるものであります。

3 研究開発費の総額

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
一般管理費に含まれる研究開発費	369,559千円	409,246千円

4 固定資産売却損、固定資産除却損

主として老朽設備の入れ替えによるものです。

5 投資有価証券評価損に含まれる関係会社出資金及び関係会社株式の評価損

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
	167,179千円	22,262千円

6 特別利益その他

前事業年度(自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日)

第一生命保険相互会社の株式会社化に伴い株式の割当を受けたことによる34,401千円であります。

当事業年度(自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)

該当事項はありません。

7 補助金収入

前事業年度(自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成23年 4月 1日 至平成24年 3月31日)

福島県中小企業等グループ施設等復旧整備補助金

8 特別損失その他

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
資産除去債務	3,200千円	
災害による損失	14,831千円	2,797千円
横浜本社 旧営業棟の取壊し費用		8,617千円
その他の解体費用	6,191千円	2,568千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成22年 4月 1日 至平成23年 3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	765,857	1,052,324	1,800,000	18,181

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります

当社は、平成22年12月2日開催及び平成23年2月14日開催の取締役会において、会社法第165条3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、次のとおり自己株式を取得いたしました。これにより、自己株式が374,170千円増加しております。

- (1) 取得した株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 1,039,000株
- (3) 取得実施日 平成22年12月7日及び平成23年2月15日

その他に単元未満株式の買取による増加が13,324株あります。

減少数の内訳は、次のとおりであります。

当社は、平成22年9月13日開催の取締役会、平成22年12月20日開催の取締役会及び平成23年3月5日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、次のとおり自己株式を消却いたしました。

これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ624,105千円減少しております。

- (1) 消却した株式の種類 当社普通株式
- (2) 消却した株式の総数 1,800,000株
- (3) 消却実施日 平成22年9月27日、平成23年1月12日、平成23年3月23日

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	18,181	990,300	1,000,000	8,481

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります

当社は、平成23年8月18日開催及び平成23年11月17日開催の取締役会において、会社法第165条3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得することを決議し、次のとおり自己株式を取得いたしました。これにより、自己株式が329,117千円増加しております。

- (1) 取得した株式の種類 当社普通株式
- (2) 取得した株式の総数 989,000株
- (3) 取得実施日 平成23年8月19日、平成23年11月18日

その他に単元未満株式の買取による増加が1,300株あります。

減少数の内訳は、次のとおりであります。

当社は、平成23年12月12日開催の取締役会において、会社法第178条の規定に基づき、自己株式を消却することを決議し、次のとおり自己株式を消却いたしました。これにより、利益剰余金及び自己株式がそれぞれ333,886千円減少しております。

- (1) 消却した株式の種類 当社普通株式
- (2) 消却した株式の総数 1,000,000株
- (3) 消却実施日 平成23年12月28日

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

有形固定資産

主に生産設備、コンピュータであります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

2 リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりです。

リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っております。

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引

1 リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)		
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相 当額(千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	274,614	211,834	62,780
工具、器具及び備品	5,162	3,269	1,892
ソフトウェア	7,504	7,504	
合計	287,280	222,607	64,673

	当事業年度 (平成24年3月31日)		
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相 当額(千円)	期末残高相当額 (千円)
機械及び装置	235,390	204,508	30,882
工具、器具及び備品	5,162	4,301	860
ソフトウェア			
合計	240,552	208,810	31,742

2 未経過リース料期末残高相当額等

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	38,222千円	29,337千円
1年超	38,500千円	9,163千円
合計	76,723千円	38,500千円

3 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
支払リース料	50,316千円	41,659千円
減価償却費相当額	40,004千円	32,930千円
支払利息相当額	10,312千円	8,728千円

4 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

5 利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(有価証券関係)

以下の全ての子会社株式及び関連会社株式について、市場価格がないため、時価を把握することが極めて困難と認められます。このため、子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

区分	貸借対照表金額(千円)	
	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
子会社株式	1,448,296	1,450,378
関連会社株式	392,057	460,649

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
(繰延税金資産)		
退職給付引当金	801,187千円	659,643千円
賞与引当金	237,521千円	205,170千円
関係会社株式等評価損	191,702千円	
その他有価証券評価差額金	71,367千円	19,166千円
その他	296,044千円	450,974千円
繰延税金資産 小計	1,597,823千円	1,334,955千円
評価性引当額	307,640千円	287,578千円
繰延税金負債との相殺	57,149千円	139,226千円
繰延税金資産 合計	1,233,033千円	908,150千円
(繰延税金負債)		
前払年金費用	57,149千円	139,226千円
繰延税金資産との相殺	57,149千円	139,226千円
繰延税金負債 合計		
繰延税金資産の純額	1,233,033千円	908,150千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率		40.6%
(調整)		
受取配当金等永久に益金に算入されない項目		7.1%
試験研究費の特別控除	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、記載を省略しております。	4.0%
住民税均等割額		1.1%
修正申告による影響額		1.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正		5.1%
その他		0.9%
		37.9%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律及び東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法が平成23年12月2日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算（ただし、平成24年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の40.6%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成24年4月1日から平成27年3月31日までのものは37.9%、平成27年4月1日以降のものについては35.5%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）が90,057千円減少し、当事業年度に計上された法人税等調整額が87,303千円、その他有価証券評価差額金額が2,753千円、それぞれ増加しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
1株当たり純資産額	378円70銭	1株当たり純資産額	397円13銭
1株当たり当期純利益	21円78銭	1株当たり当期純利益	25円16銭
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、新株予約権付社債等潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
当期純利益(千円)	983,734	1,102,457
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る当期純利益(千円)	983,734	1,102,457
期中平均株式数(株) (普通株式)	45,172,656	43,817,960

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
(投資有価証券)		
株式会社常陽銀行	1,117,341	423,472
東プレ株式会社	252,000	218,988
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	458,070	188,724
株式会社みずほフィナンシャルグループ	688,760	92,982
岩田不動産株式会社	1,821	91,050
有限会社横浜合金金型鑄造所	1,900	88,825
杉本商事株式会社	83,950	67,663
株式会社丸山製作所	359,064	65,349
株式会社横浜銀行	122,905	50,882
フルサト工業株式会社	50,468	43,402
株式会社りそなホールディングス	101,179	38,549
その他(7銘柄)	532,906	111,234
計	3,770,364	1,481,124

(注) 上記はすべて、その他有価証券であります。

【債券】

銘柄	券面総額(千円)	貸借対照表計上額(千円)
(有価証券)		
三菱UFJセキュリティーズインターナショナルユーロ円建クレジットリンク債	100,000	100,000
小計	100,000	100,000
(投資有価証券)		
株式会社三菱東京UFJ銀行劣後社債	430,000	437,490
株式会社三菱UFJ信託銀行劣後社債	320,000	326,511
株式会社みずほ銀行劣後社債	200,000	203,034
三菱UFJ証券ホールディングス株式会社ユーロ円建クレジットリンク債	200,000	200,000
日産自動車株式会社社債	50,000	50,000
小計	1,200,000	1,217,036
計	1,300,000	1,317,036

(注) 上記はすべて、満期保有目的の債券であります。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	5,551,252	55,342	112,912	5,493,681	3,470,208	128,490	2,023,473
構築物	502,106	20,198	12,355	509,949	423,519	15,240	86,429
機械及び装置	3,851,423	146,331	341,203	3,656,550	3,047,591	140,909	608,958
車両運搬具	62,312		5,513	56,798	56,592	869	206
工具、器具及び備品	2,052,145	53,481	97,903	2,007,723	1,951,201	79,669	56,522
土地	1,422,347			1,422,347			1,422,347
リース資産	625,275	72,147		697,423	223,898	101,688	473,524
建設仮勘定	2,319	317,913	275,353	44,879			44,879
有形固定資産計	14,069,181	665,414	845,242	13,889,353	9,173,011	466,867	4,716,342
無形固定資産							
リース資産	35,304			35,304	15,956	7,060	19,347
借地権	790			790			790
ソフトウェア	51,939	17,015		68,954	26,633	13,242	42,321
ソフトウェア仮勘定	1,450	1,120	2,570				
電話加入権	3,916			3,916			3,916
電信電話専用施設 利用権	3,325		1,810	1,515	368	92	1,146
無形固定資産計	96,725	18,135	4,380	110,480	42,957	20,395	67,522
長期前払費用	6,019	320	2,118	4,221	2,369	818	1,851

(注) 1. 主な増加額

リースによるマシニングセンターの取得 72,147千円
各工場 非常用発電機の設置 22,821千円

2. 主な減少額

秋田工場 一部生産設備の売却 207,418千円
横浜本社 旧営業棟等の除却 171,380千円

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(注) 1	171,503	641	687	126	171,331
賞与引当金	585,028	541,346	585,028		541,346
役員賞与引当金	35,580	35,496	35,580		35,496
製品保証引当金	115,617	160,577	115,617		160,577
災害損失引当金(注) 2	116,868		109,269	7,599	

(注) 1. 貸倒引当金の当期減少額(その他)は、対象債権の減少による取崩であります。

(注) 2. 災害損失引当金の当期減少額(その他)は、前期見積額と費用発生額との差額分の取崩しであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

(a) 資産の部

(イ) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	
預金の種類	
当座預金	3,429,127
外貨預金	189,241
普通預金	41,406
定期預金	100,000
預金計	3,759,775
合計	3,759,775

(ロ) 受取手形

相手先別内訳

主な相手先	金額(千円)
T A C O株式会社	2,138
アネスト岩田サービス株式会社	1,802
株式会社加地テック	1,706
アネスト岩田コーティングサービス株式会社	977
アネスト岩田真空サービス株式会社	252
その他	415
合計	7,292

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成24年4月	6,515
" 5月	
" 6月	777
合計	7,292

(八)売掛金

相手先別内訳

主な相手先	金額(千円)
株式会社海南	308,095
ATLAS COPCO AIRPOWER N.V.	278,133
ANEST IWATA Europe s.r.l.	236,726
ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co., Ltd.	173,656
株式会社ジーネット	137,543
その他	1,869,308
合計	3,003,463

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円)	当期発生高(千円)	当期回収高(千円)	当期末残高(千円)	売掛金回収率(%)	売掛金滞留期間 (月数)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	$\frac{(A)+(D)}{2} \div \frac{(B)}{12}$
2,903,527	15,882,331	15,782,394	3,003,463	84.0	2.23

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用していますが、上記金額には消費税等が含まれております。

(二)商品及び製品

内容	金額(千円)
圧縮機関係	465,251
真空機器関係	88,977
塗装機器関係	415,649
塗装設備関係	22,461
合計	992,341

(ホ)仕掛品

内容	金額(千円)
圧縮機関係	58,777
真空機器関係	38,971
塗装機器関係	18,137
塗装設備関係	21
合計	115,907

(へ)原材料及び貯蔵品

内容		金額(千円)
原材料	圧縮機関係	513,247
	真空機器関係	89,918
	塗装機器関係	189,517
	塗装設備関係	4,043
	小計	796,727
貯蔵品	補助材料及び消耗工具	19,506
	その他	24,512
	小計	44,019
合計		840,746

(ト)関係会社株式

銘柄	金額(千円)
子会社株式	
ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.	585,378
ANEST IWATA USA, Inc.	293,395
ANEST IWATA SOUTHEAST ASIA Co.,LTD	110,229
ANEST IWATA-Medea, Inc.	106,950
ANEST IWATA AIR ENGINEERING, INC .	106,769
その他(11社)	247,656
計	1,450,378
関連会社株式	
株式会社アドバン理研	250,200
岩田友嘉精機股分有限公司	75,726
株式会社海南	68,592
Powerex-Iwata Air Technology, Inc.	66,130
計	460,649
合計	1,911,028

(チ)関係会社出資金

銘柄	金額(千円)
子会社出資金	
AIR GUNSA s. r. l.	271,194
嘉興阿耐思特岩田産業機械有限公司	225,011
ANEST IWATA Europe s. r. l.	127,186
東莞阿耐思特岩田機械有限公司	71,285
ANEST IWATA AIR TECH s. r. l.	66,825
その他(5社)	148,622
計	910,126
関連会社出資金	
杭州阿耐思特岩田友佳空圧機有限公司	223,546
上海阿耐思特岩田塗装機械有限公司	156,470
Anest Iwata Italia s. r. l.	13,731
計	393,747
合計	1,303,874

(b) 負債の部

(イ)買掛金

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
りそな決済サービス株式会社	906,462
アトラスコプロ株式会社	160,777
リョービ株式会社	65,329
堀正工業株式会社	26,455
ANEST IWATA MOTHERSON Ltd.	20,859
その他	370,414
合計	1,550,298

(ロ)退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	7,452,409
年金資産	5,209,933
会計基準変更時の差異未処理額	388,701
未認識数理計算上の差異	885,183
未認識過去債務(債務の減額)	461,381
貸借対照表計上額純額	1,429,972
前払年金費用	392,186
退職給付引当金	1,822,158

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
株券の種類	
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料 株券喪失登録 株券喪失登録申請料 株券登録料	
単元未満株式の買取り・買増し 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取・買増手数料	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。なお、電子公告は当会社のホームページ上に掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.anest-iwata.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について次に掲げる権利および当会社定款に定める権利以外の権利を行使することができない。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の売り渡しを請求することができる権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第65期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)平成23年6月24日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度 第65期(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日) 平成23年6月24日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第66期第1四半期(自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日) 平成23年8月11日関東財務局長に提出。

第66期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日) 平成23年11月11日関東財務局長に提出。

第66期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日) 平成24年2月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書

平成23年6月27日関東財務局長に提出。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成23年9月8日、平成23年12月8日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月26日

アネスト岩田株式会社
取締役会 御中

青南監査法人

代表社員 公認会計士 小平 修
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 齋藤 敏雄

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアネスト岩田株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アネスト岩田株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、アネスト岩田株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、アネスト岩田株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年 6月26日

アネスト岩田 株式会社
取締役会 御中

青南監査法人

代表社員 公認会計士 小 平 修
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 齋 藤 敏 雄

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているアネスト岩田株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第66期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アネスト岩田株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。